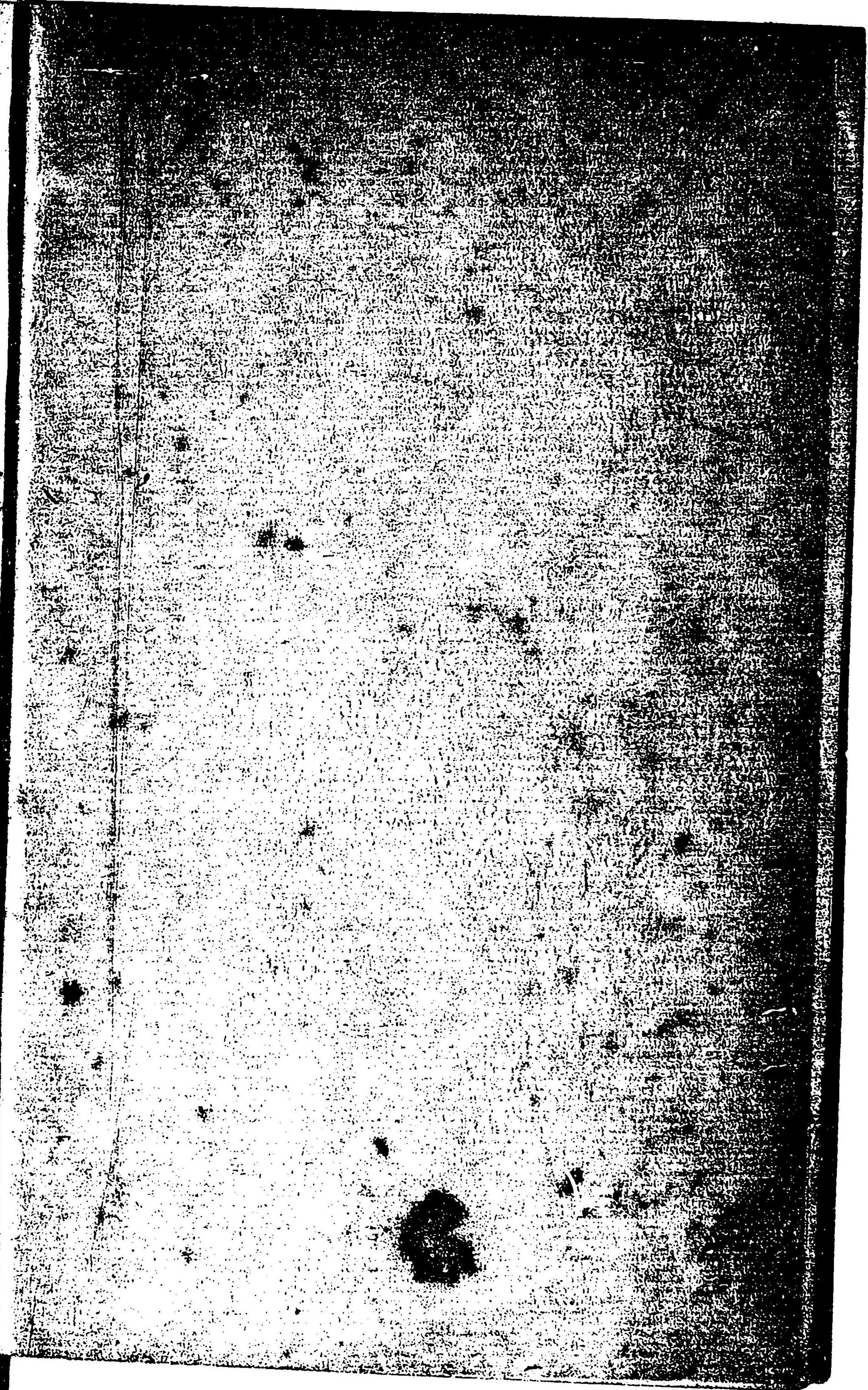


明治三十六年度事蹟報告

京都蠶業講習所

東京職業習所全景



緒言

從來本所ニ於テ發行スル蠶事報告ハ斯業ニ關スル試験及調査ノ成績ト講習生教養ノ事項トヲ併セ編纂シタルモノナリシガ記載ノ事項漸ク多キヲ加テ閱覽ニ便ナラザルモノアリ乃チ之レヲ改メテ蠶事報告ハ單ニ試験ノ成績ヲノミ登載シ別ニ事蹟報告ナルモノヲ刊行シテ講習試験調査等一般事蹟ノ概要ヲ収録スルコト、セリ本報ハ即チ明治三十六年度ニ於ケル事蹟ノ概要ヲ編纂シタルモノニシテ尙参照ニ便セン爲メ本所ノ沿革及法令諸規則ヲ併載シ以テ當業者ノ参考ニ資ス

明治三十七年六月

京都蠶業講習所

明治
37 6 28
内交

明治三十六年度事蹟報告

目次

沿革

第一章 講習

第一節 本科別科講習生

十二頁

第二節 講習生養蠶實習成績

十八頁

第三節 研究生

二十九頁

第四節 留學生

三十一頁

第五節 蠶病消毒法講習生

全頁

第二章 試驗

第三章 調査

第一節 桑樹發芽及開葉ノ狀況

四十一頁

第二節 蠶種貯藏及催青
第三節 氣象

六十頁
六十二頁

第四章 配付蠶種

第五章 出張

第六章 質問應答

第七章 鑑定

第八章 雜件

第一節 文書ノ往復

第二節 來觀人員

第三節 書籍刊行

六十九頁
全頁
全頁

第九章 土地及建物

第一節 敷地

六十九頁

第二節 建物

七十頁

第三節 蠶室圖解

七十二頁

附錄

本所ニ關スル法令規則

七十五頁

明治三十六年度事蹟報告

沿革

明治七年内務省内藤新宿勸業寮出張所ニ於テ始メテ蠶業試験掛ヲ設ケ斯業ニ關スル諸般ノ試験ヲ行ヒテシガ明治十二年五月勸農局試験場ノ廢止ト共ニ中絶セリ是ヨリ先キ蠶病中恐ルベキ微粒子病ハ西歐伊佛等ニ淵蔓シ我國ノ蠶業界亦其慘禍ヲ被ラントスルノ兆アリ茲ニ於テカ明治十七年農商務省ハ蠶病試験場ヲ東京麹町區内山下町ニ假設シテ專ニ該病ニ係ル種々ノ試験ヲ行ヒ明治十九年豫防殄滅ノ第一着手トシテ蠶種検査規則ヲ發布セリ

蠶種検査規則公布セラレテ之レガ運用ヲ主ムル技術者養成ノ必要アリ乃チ明治十九年地ヲ東京府北豊島郡西ヶ原ニトシテ名ヲ蠶業試験場ト改メ一方試験ノ方法ヲ擴張シテ蠶業全般ニ關スル諸項ニ亘リ一方多クノ傳習生ヲ募集シテ蠶種検査員ノ養成ニ勉メタリ爾來蠶業ノ進歩益々旺盛ニシテ各地該場ノ規畫ニ倣ヒ養蠶傳習所ヲ設クルモノ頗ル多ク斯業技術者ノ需用頓ニ増加セシカバ明治二十三年更ニ傳習ノ目的ヲ變更シテ稍其程度ヲ高メ地方養蠶傳習所教師若クハ同巡回教師トナルベキモノヲ養成セリ然ルニ明治二十八年衆議院議員ハ當時蠶業ノ進運ヲ促成利導センニハ唯一ノ蠶

業試験場ヲ以テ不足ナリトシ東京及京都ニ蠶業講習所ヲ設置スルノ建議案ヲ提出シ之レテ可決セリ然リト雖モ當時恰モ日清戦役ノ後國事多端ニシテ遂ニ之レガ増設ヲ許サズ唯明治二十九年三月蠶業講習所官制ヲ發布セラレタルモヨリ蠶業試験場ヲ改メテ蠶業講習所ト稱シ傳習ノ方法ヲ革新シテ本科別科ヲ置キ試験ノ方法ヲ習ニシテ益因果ノ關係ヲ明カニシ更ニ調査ノ項目ヲ新設シテ斯業改善ニ資スル所アリシト雖モ蠶業ノ發達益々盛ニ到底此改革ヲ以テ足レリトセス實業大會等ノ開會アレハ毎ニ政府ニ建議シテ之レガ増設ヲ迫リ國會議員中時々質問ヲ呈出シテ之レガ實行ヲ促ス等一般當業者ノ希望愈々切ナルモノアリ殊ニ年々入場ノ生徒ハ應募人員ノ半ハニ及ハス巡回講話ノ爲メ技術官ノ派遣ヲ請求スルモノ漸ク多キモ所員ノ不足ハ悉ク之レニ應ズルコト能ハザル等斯業獎勵上遺憾ナカラザリシヲ以テ明治三十一年政府ハ茲ニ増設ノ議ヲ定メテ經費ノ豫算ヲ編成シ時ノ議會ノ協賛ヲ經テ之レガ準備ニ着手シ事務漸ク進捗シテ明治三十二年三月敕令第八十九號ヲ以テ蠶業講習所官制ヲ改定セラレ次テ同年六月告示第六十一號ヲ以テ蠶業講習所名稱及位置ノ公布アリ乃チ同年八月ヨリ本所ノ業務ヲ開始シ爾來着々規畫スル所アリ經營未ダ全カラズト雖モ大体ノ設備ハ漸ク竣了セリ

今開所以來施行シタル事蹟ノ概要ヲ年次ヲ逐フテ摘記スベシ

○明治三十二年度

一 講習

三十二年十一月十一日第一回本科講習生廿名ヲ入學セシメ全日ヨリ授業ヲ開始ス内一名退學セリ

三十三年三月一日第一回別科講習生四十八名ヲ入學セシメ全日ヨリ授業ヲ開始ス内二名退學セリ

本年度ニ於テ研究生一名入所研究ヲ了ス

二 試験及調査

本年度内ニ於テ着手セシ試験及調査ノ項目ハ總計九件トス専ラ桑樹及蠶種ニ關スルモノナリ

三 蠶種 配付

本年度内ニ於テ蠶種ノ配付ヲ出願セシモノ二府十五縣ニ亘リ其數九十八名ニ達ス

四 質問 應答

本年度内ニ於ケル蠶糸業ニ關スル質問ノ數ハ七十五件ニシテ悉ク之ニ應答セリ

五 出張 巡回

本年度ニ於テ蠶糸業ニ關スル講話等ノ爲メ所員ノ派遣ヲ請求シ來リシニ依リ其需メ

ニ應シ派遣セシ府縣及度數ハ京都八、愛知二、三重四、滋賀五、岐阜一ナリトス
右ノ外土地買収及桑樹栽培及蠶糸業ノ實況調査ノ爲メ特ニ所員ノ出張セシ府縣及度
數ハ京都二、三重、兵庫、愛知、奈良、岐阜、滋賀、岡山、廣島、和歌山、愛媛及高知各一ナリトス

六 來觀人員

本年度中本所來觀人員ノ總數ハ百五十一人ナリ

七 土地買収

本所ハ本年度ノ新設ニシテ即京都府下ニ於テ敷地ヲ選定シ葛野郡衣笠及花園ノ兩村
入會民有地一萬五千七百五十三坪六合六勺ヲ買収セリ

八 建物建築

前項ノ如ク敷地買収ノ後直ニ事務室教室、寄宿舍外三棟ヲ建設シ尋テ試験及別科ノ兩
養蠶室並ニ簡易養蠶室外五棟ヲ建築セリ

九 書籍刊行

本所設置始末及本所ニ關スル法令規則事務要領等ヲ編纂シ京都蠶業講習所一覽ト題
シ之ヲ印刷ニ付シテ當業者ニ配布セリ

○明治三十三年度

一 講習

第一回本科講習生中三十三年八月第一學年ノ試験ニ及第シタルモノ十五名アリ十月
一日ヨリ之レニ第二學年ノ授業ヲ開始ス而シテ中途退學者一名アリ
三十三年十月一日第二回本科講習生廿名ヲ入學セシメ前級落第者四名ト共ニ全日ヨ
リ第一學年ノ授業ヲ開始セリ
三十三年三月一日第二回別科講習生四十八名ヲ入學セシメ全日ヨリ授業ヲ開始ス
本年度中ニ於テ研究生ノ入學ヲ許可シタルモノ四名アリ内三名研究ヲ了ス
三十三年八月一日第二回別科講習生中制規ノ試験ニ及第シタルモノ四十名ニ卒業證
書ヲ授與セリ

二 試験及調査

本年度内ニ於テ施行セシ試験及調査ノ項目ハ總計四十七件トス桑樹、蠶種、蠶兒、成繭製
絲ノ全般ニ涉レリ

三 蠶種配付

本年度ニ於テ配付シタル蠶種ハ小石丸二萬九千四百六十三蛾分青熟一萬二千〇六十
蛾分角又七千九百五十蛾分ニシテ其人員百六十七名ナリ

四 質問應答

本年度ニ於テ管内各府縣當業者ノ蠶糸業ニ關スル質問ニ應答シタル數ハ百四十五件

ナリ

五 出張巡回

本年度ニ於テ蠶絲業ニ關スル講話等ノ爲メ其需メニ應ジテ所員ヲ派遣セシ府縣及度數ハ京都八滋賀七三重六福井五岐阜三愛知及鳥取各二大阪長野島根徳島及愛媛各一ナリ

右ノ外桑樹栽培及蠶絲業ノ實況調査教務又ハ事務打合實業又ハ蠶糸業大會農談會及共進會等臨席ノ爲メ特ニ所員ノ出張セシ府縣及度數ハ東京六富山四熊本二京都大阪長崎愛知滋賀岐阜石川島根佐賀各一ナリトス

六 來觀人員

本年度本所來觀人員ノ總數ハ一千九十二人ニシテ毎月平均九十一人ナリ

七 土地買收

本所用地ハ前年度ニ於テ買收セシガ桑園ノ部狹隘ヲ感ズルニ依リ本年度ニ於テ更ニ一千四百三十一坪現在桑園ノ接壤地ヲ買收セリ

八 建物建築

本年度ニ於テハ製絲室汽罐室化學實驗室傳習及試験兩養蠶室寄宿舎等九棟ヲ建築セリ

九 書籍刊行

本年度ニ於テ舉行セル蠶事試験ノ成績ト傳習生教養ノ事項トヲ併セ編纂シ蠶事報告第一號ト題シ之レヲ印刷ニ付シテ官衙公署當業者ニ配布セリ

○明治三十四年度

一 講習

第一回本科講習生中三十四年七月規定ノ試験ヲ經テ卒業セルモノ十四名ニ卒業證書ヲ授與セリ

第二回本科講習生中三十四年八月規定ノ試験ニ及第シタルモノ十六名之レニ第二學年ノ授業ヲ開始セリ

第三回本科講習生廿五名ハ三十四年八月ヲ以テ入學ス之レニ前級落第生二名ヲ併セ十月一日ヨリ第一學年ノ授業ヲ開始セリ

第二回別科講習生中三十四年七月規定ノ試験ヲ經テ卒業セルモノ四十五名ニ卒業證書ヲ授與セリ

第三回別科講習生四十八名ハ三十五年三月一日ヲ以テ入所ス即チ全日ヨリ授業ヲ開始セリ

本年度内ニ於テ研究入學ヲ許可シタルモノハ八名ニシテ全研究ヲ了シタルモノハ八名

トス而シテ研究證明書ヲ交付シタルモノ三名アリ
三十四年九月五日ヨリ全二十五日ニ至ル三週間蠶病消毒法ノ講習ヲナス講習生ハ總
員四十名ニシテ管轄内各府縣ヨリ募集セリ

二 試験及調査

本年度内ニ於テ施行シタル試験及調査ハ總計五十一項ニシテ蠶糸業全般ニ涉レリ

三 蠶種配付

本年度ニ於テ配付シタル蠶種ハ小石丸一万二千六百八十二蛾分青熟七千三百八十蛾
分角又一千四百六十五蛾分計二万一千五百二十七蛾分ニシテ此人員六十名ナリ

四 質問應答

本年度ニ於テ蠶糸業ニ關スル質問ニ應答シタル數ハ百十七件ナリ

五 出張巡回

本年度ニ於テ蠶糸業ニ關スル講話ノ爲メ其請求ニ應ジテ所員ヲ派遣セシ府縣及度數
ハ滋賀九、京都六、三重五、奈良四、兵庫三、愛知、岐阜、福井、島根、山口、愛知、徳島各二、鳥取、岡山、和
歌山、香川、高知、熊本、宮崎各一ナリトス
右ノ外蠶糸業ノ實況調査又ハ講話、蠶種貯藏風穴調査、蠶業講話會、實業大會、共進會等ハ
臨席教務又ハ事務打合ノ爲メ特ニ所員ノ出張セシ府縣及度數ハ東京八、京都七、愛知三、

兵庫、岐阜及高知各二、三重、静岡、山梨、滋賀、福井、富山、和歌山、愛媛、福岡及鹿島各一ナリトス

六 參觀人員

本年度中本所來觀人員ノ總數ハ貳千六百五拾參人ニシテ即毎月平均貳百廿壹人ナリ

七 建物増築

本年度ニ於テ舍監宿直室及囑託醫診寮室ノ設備ヲ要シ又薪炭室狹隘ヲ告グルニ依リ
合計拾七坪五合ノ増築ヲナセリ

八 書籍刊行

昨三十三年度ニ於テ舉行セル製糸ニ關係スル試験成績ヲ編纂シ蠶事報告第一號追刊
トシ又本年度ニ於テ施行セル試験調査及傳習等ノ事項ヲ併セテ編纂シ蠶事報告第二
號ト題シテ官衙公署當業者ニ配布セリ

○明治三十五年度

一 講習

第二回本科講習生中三十五年七月規定ノ試験ヲ經テ卒業セルモノ十六名ニ卒業證書
ヲ授與セリ

第三回本科講習生中三十五年八月規定ノ試験ニ及第シタルモノ十六名之レニ第二學
年ノ學科ヲ授ク

第四回本科講習生二十名ハ三十五年八月ヲ以テ入學ス之レニ前級落第生四名ヲ合セ十月一日ヨリ第一學年ノ授業ヲ開始セリ

第三回別科講習生中三十五年七月規定ノ試験ニ及第セルモノ四十四名ニ卒業證書ヲ授與セリ

第四回別科講習生四十八名ハ三十六年二月一日ヲ以テ入所ス即チ全日ヨリ授業ヲ開始セリ

本年度内ニ於テ研究入學ヲ許可シタルモノ六名ニシテ同研究ヲ了シタルモノ三名トス而シテ研究證明書ヲ交付シタルモノ四名アリ

三十五年九月五日乃至全廿五日ノ三週間蠶病消毒法ノ講習ヲナス講習生ハ總員四十名ナリシモ事故ノ爲メ中途二名ヲ欠ケリ

二 試験及調査

本年度内ニ於テ施行シタル試験及調査ハ總計三十六項ニシテ蠶糸業全体ニ涉レリ

三 蠶種配付

本年度ニ於テ配布シタル蠶種ハ小石丸一萬一千三百四十蛾分青熟三千三百三十二蛾分角又一千四百五十六蛾分計一萬六千百廿八蛾分ニシテ此ノ人員六十二名ナリ

四 質問應答

本年度ニ於テ蠶糸業ニ關スル質問ニ應答シタル數ハ百六十三件ナリ

五 出張巡回

本年度ニ於テ蠶糸業ニ關スル講話等ノ爲メ其請求ニ應ジ所員ヲ派遣セシ府縣及度數ハ岐阜六、兵庫五、京都、滋賀及福井各四、三重、香川及愛媛各三、山口二、奈良、滋賀、徳島及熊本各一ナリトス

右ノ外蠶絲業ノ實況調査、教務又ハ事務打合ノ爲メ特ニ所員ノ出張セシ府縣及度數ハ大阪九、東京六、奈良、滋賀及石川各二、岐阜、福井、富山、鳥取、島根及和歌山各一ナリトス

六 來觀人員

本年度中本所來觀人ノ總數ハ三千八十四人ニシテ即毎月平均二百五十七人ナリ

七 書籍刊行

昨三十四年度ニ於ケル蠶事試験ノ成績中蠶事報告第二號ノ刊行當時未ダ完了セザリシモノト全年中施行セル蠶病消毒法講習ノ事蹟ト併セ編纂シ蠶事報告第二號追刊トシ又本年度ニ於テ施行セル試験調査及講習等ノ事項ヲ併セ編纂シ蠶事報告第三號ト題シ之レヲ印刷ニ付シテ官衙公署當業者ニ配布セリ

以上ハ本所開始以來ノ事蹟ノ概要トス而シテ昨三十六年度ニ於ケル事蹟ハ下條ニ詳カナリ

第一章 講習

第一節 本科別科講習生

本科第三回講習生

明治三十四年十月ヲ以テ入學許可セシモノ二十四名外ニ前級落第者二名ヲ併セ合計二十六名ノ授業ヲ開始シ明治三十五年七月迄ニ病氣其他ノ事故ニヨリ退學セルモノ四名第一學年試験ニ落第セルモノ四名ヲ除クノ外規定ノ學科ヲ授ケ三十六年七月試験ヲ行ヒ卒業生十八名ヲ出セリ

本科第四回講習生

明治三十五年十月ヲ以テ入學ヲ許可セシモノ二十名外ニ前級落第生四名ヲ併セ合計二十四名ノ授業ヲ開始シ明治三十六年七月迄ニ病氣其他ノ事故ニヨリ退學セルモノ三名第一學年試験ニ落第セルモノ二名休學ノ結果進級スルコトヲ得ザルモノ三名ヲ除キ第二年級ニ進級セルモノ十六名ナリ

本科第五回講習生

明治三十六年八月募集試験ニ合格シタルモノ二十五名ト前學年落第セシモノ及ビ休學者ヲ併セ合計三十名ニ十月一日ヨリ授業ヲ開始セリ而シテ中途退學者三名退學ヲ

命セシモノ一名休學者一名軍事召集ニ應ゼシモノ一名ヲ除キ現員二十四名ナリ
別科第四回講習生

明治三十五年十二月入學試験合格者ニシテ明治三十六年二月一日ヨリ入學ヲ許可セシモノ四十八名内中途退學者一名卒業試験ニ落第セルモノ二名ヲ除キ明治三十六年七月四十五名ノ卒業生ヲ出セリ

別科第五回講習生

明治三十六年十二月第五回別科講習生ノ入學試験ヲ舉行シ合格者四十八名及第四回別科講習生ニシテ卒業試験ニ落第シ再ビ入學ヲ志願セシモノ一名合計四十九名ニ對シ三十七年二月一日ヨリ授業ヲ開始セリ而シテ其後退學者三名休學生三名軍事召集ニ應ゼシモノ一名ヲ除キ現員四十二名ナリ

卒業證書授與式

明治三十六年七月卅日第三回本科講習生第四回別科講習生卒業證書授與式ヲ舉行セリ其次第ハ當日午前九時清浦農商務大臣酒匂農務局長大森京都府知事其他朝野ノ來賓及職員一同着席松永所長ヨリ本科講習生十八名別科講習生四十五名ニ一々卒業證書ヲ授與シ次テ農商務大臣ヨリ優等生本科二名別科二名ニ賞品ヲ授與シ畢テ所長ノ式辭大臣ノ告辭アリ次ニ來賓及在學生總代ノ祝辭朗讀アリ本科卒業生總代小久保金

藏別科卒業生總代堀清次郎之ニ答へ式全ク終レテ卒業生ノ氏名ハ左ノ如シ

第三回本科卒業生（十八名）

滋賀縣	三重縣	京都府	福井縣	鳥取縣	三重縣	宮崎縣	三重縣	長崎縣	山口縣	愛媛縣	京都府	廣島縣	滋賀縣
森脇卯之助	加藤由松	梅原好松	大崎莊作	波當根武藏	矢野龜三郎	本部定敏	磯部照博	古賀次四郎	宗正圓輔	橫井實太	木上恒藏	渡邊準太郎	小久保金藏

第四回別科卒業生（四十五名）

宮崎縣	愛知縣	愛知縣	愛媛縣	愛知縣	島根縣	島根縣	高知縣	和歌山縣	岐阜縣	岐阜縣	熊本縣	德島縣	廣島縣	愛媛縣
小牧清作	岡本陸治	鈴木光次郎	鎌田安重	向坂助吉	津森倫秋	桐啓之助	島村三彌之助	益田芳之助	松永唯一	堀清次郎	鶴田齋	元木英二	沖一靜	芥川完一郎

佐賀縣 岐阜縣 宮崎縣 山口縣 奈良縣 德島縣 山口縣 島根縣 山口縣 德島縣 德島縣 高知縣 廣島縣 愛知縣 島根縣 三重縣

愛知縣 京都府 熊本縣 福井縣 京都府 山口縣 鹿兒島縣 滋賀縣 愛知縣 熊本縣 岡山縣 京都府 石川縣 岐阜縣 岡山縣 熊本縣

山田勳 西川砂 森岡道春 田中歌郎 稻葉丑太郎 二宮松雄 弘永虎之輔 岩崎金市 今橋理八 七條松太郎 伊藤文八 近森新吾 佐々木壽市 岡本彦輔 神田源太郎 真川源太郎

中神定平 岩谷德治 岩村善八 歸山甚太郎 山崎德之助 今村品太郎 山本仲太郎 中川專次郎 河合莊三 福田常喜 景森繁松 吉岡周藏 元岡重作 酒田正道 有友八郎 中村繁人

熊本縣
熊本縣
右ノ内優等生ハ左ノ如シ

佐藤熊治
高森勝次

本科
本科
本科
別科
別科
別科

小久保金藏
渡邊準太郎
堀清次郎
松永唯一

第二節 講習生養蠶實習成績

(一) 本科二年生春蠶

本科二年生ノ養蠶實習ハ簡易蠶室ニ於テ之ヲ行ヒタリ蠶種ハ本所採種ノ青熟種ニシテ講習生一人ニ付蠶量一匁五分ヅ、ヲ配分シ催青飼育撰繭採種ニ至ルマデ各自ニ之ヲ分擔實習セシメタリ其全成績ハ左ノ如シ

飼育日數 三十日二十三時

給桑量 (對蠶量一匁) 四十九貫四百五十五匁三分

收購量 (對蠶量一匁) 三貫百七十四匁二分

催青及掃立

四月十五日蠶種ヲ取出シテ催青ニ着手シ四月廿五日午後先出ノ蠶ヲ掃キ捨テ、紙包ナシ翌廿六日正午掃立ナ了レリ

備考 本年春蠶飼育ニ供セル蠶種ハ昨三十五年十二月十日洗種ヲ行ヒ本年一月十日蠶種貯藏器ニ藏メ四月十五日ニ至リテ蠶種催青室ニ移セリ今貯藏中ノ氣象ノ概畧ヲ示セバ左ノ如シ

象ノ概畧ヲ示セバ左ノ如シ

室外平均温度 四四^度六

室外平均湿度 七六、八

室内平均温度 四七、四

室内平均湿度 八四、四

貯藏器内平均温度 四七、四

第一節 本齡

本齡中ニ於ケル天候ハ曇天若クハ雨天勝チニシテ間々晴天ノ日ニアリテモ夜間ハ殊ニ温度下降シテ五月一日及二日ノ如キハ實ニ四十六度四ニ至レリ然レモ桑葉ノ伸暢佳良蠶兒ノ發育亦異常ナキヲ得タリ

第二節 本齡

本齡中ニ於ケル天候ハ概ネ晴天ニシテ夜間温度ノ下降スルコト甚シク五月三日ノ如

キハ迷ニ結霜ヲ見ルニ至レリ然レモ桑園ハ燻烟法及撒水法ニヨリテ霜害ヲ豫防シテ
 ルヲ以テ些ノ障害ナク蠶室モ亦火力ヲ用ヒテ補温ニ勉メタルニヨリ蠶兒ノ發育平穩
 無事ナリシ

第參齡

本齡中ニ於ケル天候ハ多クハ晴天ニシテ温度ノ變化稍甚シカリシモ濕度概ニテ低ク
 蠶兒ノ發育ニ適應セシヲ以テ其經過實ニ良好ナリ

第四齡

本齡中ニ於ケル天候ハ概シテ曇天ニシテ温度高カラザリシモ蠶兒ノ經過ハ平穩無事
 ナリシナリ

第五齡

本齡中ハ温度概シテ低カリシヲ以テ蠶兒ノ發育稍緩慢ナリシモ晴天打續キ桑葉ノ摘
 採蠶兒ノ取扱甚ダ利便ナルヲ得タリ

上簇收繭及採種

上簇中ハ概シテ曇天ニシテ湿度高カリシニヨリ火力ヲ用ヰテ排濕ニ努メ上簇後七日目
 ニ至リテ收繭了シ採繭及採種ノ實習ヲナサシメタリ

蠶兒各齡經過表

種別	飼養日			給食中	合計	室内平均	回數	給食量	對蠶量一 夕給食量
	收繭	催眠	終熟						
第一齡	四月廿六日 正午十二時	四月卅日 午後三時	五月一日 午前七時	四日 十九時	一日 十時	六八二	三七	六、六四一	二、三八三
第二齡	五月二日 午後五時	五月六日 午前八時	五月六日 午後八時	四日 三時	一日 十三時	六八二	三〇	一九三〇五〇	七、一五〇
第三齡	五月八日 午前九時	五月十二日 午後十二時	五月十三日 正午十二時	五日 三時	一日 十五時	六七二	三三	六六一七七〇	二、四五一〇
第四齡	五月十五日 午前九時	五月十九日 午後三時	五月廿日 午後七時	五日 十六時	二日 四時	六八二	三五	二〇四九八〇	七、五七四〇
第五齡	五月廿二日 午後十一時	五月卅日 午前五時	五月卅一日 午後一時	八日 十二時	一日 十八時	六八三	四三	三〇三九一四九〇	三、八四八七〇
合計				廿八日 五時	廿三日 十三時	一七七一	一七三	一三三、四六三、一	四、九四五、三

收繭表

種別	上繭		中繭		下繭		全功繭		合計	
	容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量
青熟	石合 六九七九五	匁 七三、五七四	石合 一〇〇、八	匁 一〇、五六	石合 六、五一	匁 六九〇	石合 一〇、五七一	匁 一〇、八八八	石合 八二、三八五	匁 八五、八〇四
									石合 三〇、五七一	匁 三、一七四、二

(二) 本科二年生夏蠶

本所製造ノ夏蠶イ形種約十蛾分宛ヲ十八名ニ配分シ各自希望ノ試験飼育ニ從事セシ
 今其試験ノ種類ヲ分類列舉スレバ左ノ如シ

一、蠶兒ノ眠起ニ關スル試験

五

一、給桑回数ニ關スル試験
 一、衛生ニ關スル試験
 一、屋外飼育試験
 一、全葉育試験
 一、石灰給與試験
 一、雌雄鑑別試験
 一、各色光線ノ蠶兒發育ニ及ボス關係試験
 一、上簇ニ關スル試験
 三

以上ノ如ク各種ノ方法ニ試育セシメタルヲ以テ其經過各一様ナラズト雖其標準蠶兒ハ何レモ本科一年夏蠶ト掃立ヲ同フシ經過亦畧ホ之ト一致セルヲ以テ茲ニ之ヲ畧ス

(三) 本科一年生春蠶
 本科一年生春蠶實習ニ供セシ蠶種ハ本所採種ノ青熟種ニシテ一人ニ付蠶量八分宛ヲ配分シ催青飼育撰繭採種ニ至ル迄各自ニ之ヲ分擔實習セシメテ其全成績左ノ如シ
 飼育日數 三十三日二十二時三十分
 給桑量 (對蠶量一匁) 四十七匁八百五十四匁
 收繭量 (對蠶量一匁) 三貫三百六十八匁三分

催青ヨリ上簇ニ至ル迄ノ經過ハ本科二年生ト畧同シキニヨリ之ヲ省畧ス

蠶兒各齡經過表

種別	齡	給桑		對蠶量一匁收繭額	
		回数	量	回数	量
第一齡	四月廿六日	四	四、四五八	二	二、八七九
	四月廿七日	四	四、四五八	二	二、八七九
	四月廿八日	四	四、四五八	二	二、八七九
	四月廿九日	四	四、四五八	二	二、八七九
	四月三十日	四	四、四五八	二	二、八七九
第二齡	五月三日	三	三、三九二	二	二、三五五
	五月四日	三	三、三九二	二	二、三五五
	五月五日	三	三、三九二	二	二、三五五
	五月六日	三	三、三九二	二	二、三五五
	五月七日	三	三、三九二	二	二、三五五
第三齡	五月八日	二	二、九七二	一	一、七五八
	五月九日	二	二、九七二	一	一、七五八
	五月十日	二	二、九七二	一	一、七五八
	五月十一日	二	二、九七二	一	一、七五八
	五月十二日	二	二、九七二	一	一、七五八
第四齡	五月十三日	一	一、五五二	一	一、三五〇
	五月十四日	一	一、五五二	一	一、三五〇
	五月十五日	一	一、五五二	一	一、三五〇
	五月十六日	一	一、五五二	一	一、三五〇
	五月十七日	一	一、五五二	一	一、三五〇
第五齡	五月十八日	一	一、一三二	一	一、一三五
	五月十九日	一	一、一三二	一	一、一三五
	五月二十日	一	一、一三二	一	一、一三五
	五月二十一日	一	一、一三二	一	一、一三五
	五月二十二日	一	一、一三二	一	一、一三五
合計		一七五	一七、八八〇	一七五	一七、八八〇

收繭表

種別	上繭		中繭		下繭		全功繭		合計	
	容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量
青熟	三、九六二八	四、〇五七	六、六三	六、七八	二、六八	二、四二	五、〇七七	五、五五八	四、五六三	四、八五〇
	三、九六二八	四、〇五七	六、六三	六、七八	二、六八	二、四二	五、〇七七	五、五五八	四、五六三	四、八五〇

(四) 本科一年生夏蠶

本所製造ノ夏蠶イ形種十蛾分宛ヲ十九名ニ配分シ六月十九日午前十時三十分一人約
 蠶量三分宛ヲ收蟻セシメ三齡二日目ニ於テ各自一千五百頭宛ヲ擔任セシメタリ
 飼育中天候常ニ雨天若シハ曇天ニシテ冷濕甚シク常ニ火力ヲ以テ補温シタリ今其
 經過及收繭ノ成績ヲ示セバ左表ノ如シ

蠶兒各齡經過表

種別	飼食月日			齡中	室內平均			給桑量	對蠶量一 夕給桑量
	(收蟻)	(催熟)	(終熟)		溫度	濕度	回数		
第一齡	六月十九日 午前十時	六月廿二日 午後十一時	六月廿三日 午後四時	四日 五時半	一日 三時	五日 八時半	七五度	四二回	五九九 實一五九
第二齡	六月廿四日 午後七時	六月廿七日 午後五時	六月廿七日 午後五時	二日 廿二時	一日 三時	四日 一時	七四度	二四回	三〇七六 實五九六
第三齡	六月廿八日 午後八時	七月一日 午後〇時	七月二日 午後〇時	三日 十六時半	一日 七時半	五日 六時	七二度	三〇回	六〇五一 實二二三三
第四齡	七月三日 午後八時	七月七日 午後二時	七月八日 午前十一時	四日 十五時	一日 十二時	六日 三時	七三度	三三回	一八九八一 實六六六〇
第五齡	七月九日 午後十一時	七月十五日 午前八時	七月十五日 午後三時	五日 十六時	一日 五時	五日 十六時	七五度	三八回	八九〇六三 實三二五〇〇
平均				廿一日 三時	五日 一時半	廿六日 四時半	七四度	一六五回	一一七七七〇 實四〇八八八五

收繭表

種別	上繭		中繭		下繭		全功繭		合計	對蠶量一 夕收繭額
	容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量		
第一齡	八四三.六	七六〇.〇	七六	七六	三六	三六	三八	三八	一〇八三	一、一五九
第二齡	八四三.六	七六〇.〇	七六	七六	三六	三六	三八	三八	一〇八三	一、一五九
第三齡	八四三.六	七六〇.〇	七六	七六	三六	三六	三八	三八	一〇八三	一、一五九
第四齡	八四三.六	七六〇.〇	七六	七六	三六	三六	三八	三八	一〇八三	一、一五九
第五齡	八四三.六	七六〇.〇	七六	七六	三六	三六	三八	三八	一〇八三	一、一五九
合計	八四三.六	七六〇.〇	七六	七六	三六	三六	三八	三八	一〇八三	一、一五九

(五) 本科一年生秋蠶

蠶種ハ長野縣ノ所産ニ係ル生種白龍ニシテ七月廿一日午前十時一名ニ對シ約二千頭
 宛ヲ收蟻セシメ第三齡二日目ニ至リ實數調査ノ上千五百頭宛ニ一定セリ
 飼育中ノ天候ハ第一、二齡頃曇天及雨天多ク晴天僅ニ二日ノミナリシガ故ニ室内ハ多
 濕ニ陥リ驅濕ノ方法ニ努ムル所アリシモ第三齡ニ入りテハ天候順ニ歸シ晴天打續キ
 上簇ニ達セリ從テ室内ハ時ニ過乾ニ傾クコトアリシモ適宜給濕法ニヨリテ豫防セシ
 カハ蠶兒ノ發育ハ良好ニシテ八月九日ヲ以テ無事上簇ヲ結了スルニ至レリ然レモ飼
 育中鼠害ヲ被リシモノアリタルヲ以テ收繭ハ割合ニ豊カナラザリシ
 尙飼育中ノ氣象蠶兒ノ經過並ニ收繭量等ヲ表示スレバ左ノ如シ

蠶兒各齡經過表

種別	飼食月日			齡中	室內平均			給桑量	對蠶量一 夕給桑量
	(收蟻)	(催熟)	(終熟)		溫度	濕度	回数		
第一齡	七月廿四日 午前十時	七月廿六日 午前八時	七月廿七日 午後九時	三日 十一時	一日 十一時	二日 十一時	七七度	四二回	一〇六六 實二九六
第二齡	七月廿八日 午後八時	七月三十日 午後六時	七月三十日 午前十時	二日 十四時	一日 十二時	二日 十二時	七八度	二九回	二、三三二 實五九二
第三齡	七月廿八日 午前八時	七月三十日 午後四時	七月三十日 午後十時	二日 十四時	一日 十三時	三日 十三時	八二度	二九回	五七六五 實二二三五

種別	上繭		中繭		下繭		全功繭		合計	
	容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量
白龍	五七、四	五七、四	二七、五	二九、三	八〇	八三	一〇五、三	一二七、五	六七、八	六八、二
平均					十六日	廿二日	廿二日	廿九日	八〇	八三
合計					廿三日	廿九日	廿九日	廿九日	八三	八三
對繭量一匁收繭額					三三	四四	四四	四四	三三	三三
					九二、八	九二、八	九二、八	九二、八	三三	三三
					三三	三三	三三	三三	三三	三三

收繭表

(六) 別科春蠶

蠶種ハ本所製造ノ一化性小石丸種ヲ用フ
 蠶種催青ニ關スル事項ハ本科二年生春蠶種ト同一ナルヲ以テ之レヲ省略ス
 四月廿六日正午ヲ以テ掃立テ五月廿九日午前六時ヲ以テ上簇ヲ了ル之レヲ平年ニ比

スルニ約四五日間早シ蠶兒發育ノ經過ハ至極良好ニシテ多ク其比ヲ見ザル豐作ヲ得
 タリ今飼育中ニ於ケル温濕度並ニ蠶兒發育ノ狀況收繭量等ヲ表示セバ左ノ如シ
 蠶兒各齡温濕度表

齡別	室		温		湿度	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低
第一齡	七二	六五	六九、三	六五、一	七四	五四
第二齡	七四	六九	六七、六	六三、一	七七	五三
第三齡	七五	六二	六九、四	六二、一	七二	五三
第四齡	七六	五六	七〇、五	六三、一	七九	六三
第五齡	七七	五八	六八、八	六三、一	八一	五八
平均						

蠶兒各齡經過表

齡別	齡			中		合計		給桑		對繭量一匁給桑量	
	收繭	催熟	終熟	食桑中	絶食中	合計	回数	量	對繭量一匁	給桑量	
第一齡	四月廿六日 正午十二時	五月一日 午前四時	五月一日 午後一時	五日 一日	四日	五日	四〇回	八二五匁	二八九匁	二八九匁	
第二齡	五月二日 午後五時	五月五日 午後〇時	五月六日 午後二時	三十一日 一時	十四日	五十一日	二九回	三、〇八〇匁	七八三匁	七八三匁	

種別	上		中		下		全功		合計
	容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量	
第三齡	五月八日 午前四時	五月十二日 午前九時	五月十二日 午後三時	五月十八日 午後七時	五月十八日 四時	五月十八日 六時	五月十八日 六時	五月十八日 六時	二八
第四齡	五月十四日 午前五時	五月十八日 午前九時	五月十八日 午後七時	五月十八日 四時	五月十八日 六時	五月十八日 六時	五月十八日 六時	五月十八日 六時	二九
第五齡	五月二十日 午後六時	五月廿七日 午後十一時	五月廿九日 午前六時	五月廿九日 八時	五月廿九日 八時	五月廿九日 八時	五月廿九日 八時	五月廿九日 八時	四三
合計									一〇二、二九一
對總量一々收額									三六、二六〇
對總量一々收額									六、八七五〇
對總量一々收額									一、八五五〇

收 繭 表

種別	上		中		下		全功		合計
	容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量	
小石丸	七月六日 午前八時	七月六日 午後一時	七月六日 午後十一時	七月六日 午後十一時	七月六日 午後十一時	七月六日 午後十一時	七月六日 午後十一時	七月六日 午後十一時	三三、二七
合計									三三、二七
對總量一々收額									三、三五一

(七) 別科夏蠶

蠶種ハ本所ノ製造セル二化性以形種ニシテ六月二十日午前十時總講習生四十七名各一名ニ對シ蠶卵十蛾分宛發蟻約三千頭ヲ掃立テ飼育ニ供セシメ第三齡第二日目ニ至リ各自蠶數ヲ調査シ二千頭宛ヲ飼育セシメタリ

飼育中ノ氣候ハ曇天及雨天多ク晴天甚ダ少ク從テ室內ハ冷温勝チニシテ補温ノ爲メ炭火ヲ用ヒシコト殆ソド全齡ニ亘リ尙臨機補温及ヒ驅濕ノ方法ニ努メ飼育上ノ困難少カラザリシガ蠶兒ハ佳良ノ經過ヲ以テ各齡ヲ了リ七月十四日ヲ以テ上簇スルニ至

レリ今飼育中ニ於ケル氣象蠶兒ノ經過并ニ收繭量ヲ表示スルコト左ノ如シ

蠶兒各齡經過表

種別	飼食月日		催眠月日		停食月日		齡中	食桑中	總食中	合計	室內平均		給桑	對總量一々收額
	(收蟻)	(催眠)	(催眠)	(停食)	(終熟)	(終熟)					溫度	濕度		
第一齡	六月二十日 午前十時	六月廿三日 午後六時	六月廿三日 午後六時	六月廿八日 午前十時	六月廿八日 正午十二時	四日 二時	二十二時	五日	七五七	七二四	三八	四五六八	三四	
第二齡	六月廿五日 午前十時	七月一日 午後八時	七月一日 午前十時	七月十二日 午前十時	七月十二日 正午十二時	三日 日	一日	四日	七五二	七四三	二三	八八四一	六二七	
第三齡	六月廿九日 午前十時	七月十一日 午後八時	七月十一日 正午十二時	七月十二日 午前十時	七月十二日 正午十二時	二日 二時	一日	四日	七五六	六八九	二六	三三四六八	二、三七五	
第四齡	七月三日 午後五時	七月七日 午前八時	七月七日 午後五時	七月十四日 午後十一時	七月十四日 午後十一時	四日 日	十五日	十五日	七四四	七五九	三〇	一〇、九四三	七、三三〇	
第五齡	七月九日 午前八時	七月十四日 午後一時	七月十四日 午後十一時	七月十四日 午後十一時	七月十四日 午後十一時	五日 日	十五日	十五日	七五〇	八三〇	四一	四、三四一〇	一、九三三〇	
合計						十九日 十九時	四十八時	廿四日 十三時	七五四	七四九	三一六	五、六二、二五〇	三、九、八六九	

收 繭 表

種別	上		中		下		全功		合計
	容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量	
以形	三、七〇〇	二、八四三	四、一三	三、三八	二、七六	二、三五	四、九九八	四、六六五	三、八三九
合計									三、三六七
對總量一々收額									四〇、八、五
對總量一々收額									三、五八二

第三節 研究 生

明治三十六年一月以降入學ヲ出願セシモノ十八名ニシテ内許可セシモノ十一名ナリ
 而シテ前年ヨリノ繼續者ニシテ三十六年一月以後研究ヲ結了セシモノ七名アリ今其
 許可セシモノ、研究科目期間氏名等ヲ表示セバ左ノ如シ

出願年月日	研究科目	研究期間	氏名
三十六年一月一日	蠶体病理	三十六年四月六日ヨリ	德島縣 小賀野清藏
三十六年七月十三日	製絲法	三十六年三月十日ヨリ	三重縣 黒田元一
三十六年七月卅一日	製絲法	三十六年九月ヨリ	熊本縣 岩村善太
三十六年八月十日	繅絲術	三十六年十一月ヨリ	愛媛縣 攝津靜雄
三十六年九月廿七日	蠶病消毒法	三十六年三月一日ヨリ	滋賀縣 中川專次郎
三十六年九月十六日	蠶病消毒法	三十六年二月一日ヨリ	熊本縣 松本俊造
三十六年十一月十六日	繅絲法	三十六年六月一日ヨリ	山形縣 荒木柳司
三十六年十一月廿日	蠶体解剖論	三十六年十二月廿一日ヨリ	島根縣 菅澤德三郎
三十六年十二月五日	蠶病學	三十六年四月七日ヨリ	岡山縣 中井五二
三十六年十二月七日	蠶体病理論	三十七年一月一日ヨリ	和歌山縣 益田芳之助
三十六年十二月七日	蠶体病理論	三十七年二月廿六日ヨリ	京都府 植見駒藏

尙三十六年一月以後研究證明書ヲ下附セシモノハ左ノ四名ナリキ

- | | | |
|-------|-----|-------|
| 蠶病消毒法 | 鳥取縣 | 進木孝三郎 |
| 蠶病消毒法 | 廣島縣 | 中村春次郎 |
| 蠶体病理論 | 島根縣 | 菅澤德三郎 |
| 蠶体解剖 | 福岡縣 | 樋口三郎 |

第四節 留學生

三十六年九月廿日ヨリ清國人朱祖悅ノ入學ヲ許可セリ

第五節 蠶病消毒法講習生

第三回蠶病消毒法ハ三十六年九月五日ヨリ開始シ規定ノ學科及ビ實習ヲ行ヒ二十五日ヲ以テ之ヲ修了シタリ今其講習ヲ受ケタルモノ、氏名ヲ擧グルバ左ノ如シ

- | | | |
|---------------|-------------|-------|
| 第三回蠶病消毒法講習生氏名 | 京都府 中郡三重村 | 絲井德三郎 |
| | 京都府 與謝郡日置村 | 星野友治 |
| | 兵庫縣 蠶種検査員主幹 | 前原熊平 |
| | 兵庫縣 美方郡照來村 | 幸賀秀 |
| | 長崎縣 蠶種検査員 | 藤田敏治 |

奈良縣 南葛城郡忍海村
 三重縣 蠶種検査員
 三重縣 多氣郡明星村
 三重縣 員辨郡沼田村
 愛知縣 東加茂郡農會蠶業教師
 愛知縣 蠶種検査員
 愛知縣 蠶種検査員
 滋賀縣 野洲郡兵主村役場書記
 滋賀縣 滋賀郡雄琴村
 岐阜縣 惠那郡加子母村
 岐阜縣 益田郡川西村
 福井縣 蠶種検査員
 福井縣 蠶種検査員
 石川縣 能美郡小松町
 富山縣 東礪波郡栴檀山村
 鳥取縣 蠶種検査員

堀内 忠三
 中尾 伊之助
 潮田 龜藏
 美濃部 敷馬
 山田 島次郎
 山田 浪三郎
 植原 卯助
 辻川 昇
 上田 由太郎
 安江 利藏
 松下 千吉
 和田 正雄
 中尾 道祐
 田中 榮
 前田 角藏
 山田 龍太郎

島根縣 簸川郡技手
 島根縣 那賀郡農事巡回教師
 島根縣 蠶種検査所長
 岡山縣 蠶種検査員
 岡山縣 蠶種検査員
 廣島縣 高田郡可愛村
 廣島縣 苜品郡綱引村
 山口縣 玖珂郡農事巡回教師
 山口縣 玖珂郡新庄村
 和歌山縣 蠶種検査員
 和歌山縣 蠶種検査員
 德島縣 技手兼蠶種検査員
 香川縣 高松市
 愛媛縣 蠶種検査員
 高知縣 高知市
 高知縣 安藝郡農會技手

佐藤 辰郎
 井上 唯吉
 大野 觀次郎
 坪田 勇吉
 岸本 卯市
 武田 倉一
 平井 德三郎
 津森 次郎
 小田 勢助
 星田 伊三郎
 谷河 吉郎
 川人 兵次郎
 上枝 憲雄
 宇都宮 寅松
 野村 龜吉
 安岡 十四郎

福岡縣	蠶種検査員	鶴田圓次郎
大分縣	蠶種検査員	江藤 薫
佐賀縣	蠶種検査員	福富瑛次郎
熊本縣	蠶種検査員	遠藤 信常
熊本縣	下益城郡農事巡回教師	林 良太郎
熊本縣	鹿本郡三岳村	友田 新八
宮崎縣	北諸縣郡都城町	小 牧 清作
宮崎縣	北諸縣郡山田村	森 重助兵衛
鹿児島縣	肝屬郡農事巡回教師	瀬戸山 綱武
鹿児島縣	始良郡國分村	本 田 慶一
大分縣	北海郡白杵町	山 本 國 藏

第二章 試 驗

本年度ニ於テ施行セル諸般ノ試験項目ハ總數四十件ニシテ左ノ如シ

一 霜害豫防法試験
種々ノ方法ヲ試ミ以テ桑樹ニ對スル霜害豫防ノ便法ヲ按出セントスルニアリ

一 桑樹發芽及收穫調査

桑樹發芽ノ狀況ニヨリテ其早中晩ヲ確メ併テ桑樹ノ種類ニヨリ收穫ノ多寡ヲ調査セントスルニアリ

一 桑樹仕立法試験

從來本邦ニ行ハル、根刈、中刈、高刈及喬木仕立法ハ成長ノ遲速ニ收穫ノ多寡ニ其命數等ニ如何ナル差異アルヤヲ調査シ栽桑法改良ノ資ニ供セントスルニアリ

一 桑樹間作物得失試験

桑樹間ニ種々ノ間作ヲ施シタルモノト否ラザルモノトノ得失ヲ比較研究セントスルニアリ

一 桑樹摘採回数試験

桑葉ヲ春季ノミ摘採スルト春夏秋ノ三季共ニ摘採スルトハ桑樹ノ命數ニ幾許ノ差異ヲ生シ桑樹經濟上如何ナル關係ヲ有スルヤヲ知ラントスルニアリ

一 桑樹肥料三要素比較試験

肥料ノ主成分ナル三要素ハ桑樹ノ發芽及生長ニ如何ナル關係ヲ有スルヤヲ探究セントスルニアリ

一 桑樹普通肥料試験

桑樹ニ用ヰル普通各種肥料ノ優劣ヲ檢シ併セテ施肥ノ適量ヲ探究セントスルニア

一、桑樹病蟲害試験

桑樹ニ寄生スル種々ノ病菌及桑樹ヲ害スル各種蟲類ノ性質及發育ノ狀況ヲ調査シ治療豫防及驅除ノ方法ヲ探究セントスルニアリ

一、蠶卵人工孵化試験

種々ノ方法ニヨリ蠶卵ノ孵化ヲ促シ何レカ其効力最モ著シキヤヲ試ムルニアリ

一、蠶種保護試験

種々ノ方法ヲ以テ蠶種ヲ保護越年セシメ其利害ヲ比較セントスルニアリ

一、蠶ノ種類試験

内外各種ノ蠶兒ヲ飼育シ生育ノ如何及絲質ノ良否絲量ノ多寡等ヲ調査シ種類選擇ノ資ニ供セントスルニアリ

一、蠶ノ種類交配試験

内外各種類ノ交配ヲナシ以テ飼育ニ適當ニシテ絲質佳良ナル新種類ヲ求メントスルニアリ

一、蠶体生理試験

蠶体生理上ニ關スル種々ノ事項ヲ調査研究シテ飼育上ニ應用ヲ期セントスルニアリ

一、飼育法試験

種々ノ方法ヲ以テ蠶兒ヲ飼育シ其育法ノ良否ヲ探究セントスルニアリ

一、食桑試験

内外各種ノ蠶兒ニ就キ食桑ノ多寡發育ノ遲速及食桑ニ對スル絲量ノ多寡等ヲ調査シ其得失ヲ探究セントスルニアリ

一、産卵中温度試験

産卵中ノ温度ハ其卵ノ發育孵化ニ如何ナル關係アルヤヲ檢セントスルニアリ

一、遺傳試験

蠶兒蠶蛹蠶蛾等ニ於ケル異常ノ状態ニ就キ遺傳ノ有無及其傾向ヲ探知セントスルニアリ

一、上簇試験

上簇中ニ於ケル氣候ノ冷温乾濕ガ繭質ニ及ボス關係ヲ確メ且ツ種々ナル上簇器ヲ使用シ其得失ヲ探究セントスルニアリ

一、微粒子病試験

微粒子ノ繁殖遺傳及傳染ノ状態ヲ檢セントスルニアリ

一 軟化病試験

軟化病ノ原因ヲ確定シ其豫防法ヲ探究セントスルニアリ

一 膿蠶試験

膿蠶ノ原因及豫防法ヲ探究セントスルニアリ

一 蛆害試験

蠶蛆ノ特性及發育ノ狀況ヲ究覈シ以テ之レガ豫防驅除ノ良法ヲ發見セントスルニアリ

一 蠶病消毒法試験

微粒子其他ノ蠶病ニ關スル消毒ノ便法ヲ案出セントスルニアリ

一 野蠶飼育試験

柞蠶其他種々ノ野蠶ヲ飼育シテ其發育ノ狀況成繭ノ良否等ヲ檢セントスルニアリ

一 春夏秋蠶繭絲比較試験

家蠶飼育時期ノ異ルニヨリテ繭絲ノ性質及製絲工程上概シテ如何ナル差アルヤヲ比較セントスルニアリ

一 桑葉ト絲質トノ關係試験

根刈仕立及喬木仕立ノ桑葉ヲ各別ニ蠶兒ニ給與シ其成繭ヨリ得タル生絲ノ絲質ヲ比

較セントスルニアリ

一 貯繭器試験

繭ヲ貯藏スルニ當リ其容器ノ異ルニヨリ製絲上如何ナル差異ヲ生ズルヤ其最良ナル

モノハ何ナリヤヲ比較攻究セントスルニアリ

一 貯繭試験

繭ヲ鐘詰ト爲シテ貯藏スルトキハ數年ヲ經過スルモ敢テ繭質ニ損傷ヲ來ス下無キヤ

否ヤヲ確メントスルニアリ

一 繭撰別試験

大中小ニ撰別セル繭ト其混合セル繭トノ製絲上ノ結果ヲ比較セントスルニアリ

一 繭ノ容量壓縮試験

繭ヲ運搬スルニ當リ其容積ヲシテ縮小ナラシムルヲ得バ利便少ナカラストナス而シ

テ清國種ノ如キ繭ノ中部ニ緊括ナキモノハ是ヲ壓スレバ繭層ハ内部ニ向テ凹陷ス故

ニ清國ニアリテハ乾繭運搬ノ際故ヲニ壓搾器ヲ用非テ其容積ヲ縮小ナラシムル下

リ本試験ハ其無害ナルヤ否ヤヲ攻究シ以テ輸入ヲ企ツルモノ、參考ニ資セントスル

ニアリ

一 縹絲前ニ當リ繭ニ濕氣ヲ附與スルノ試験

繰絲前ニ當リ繭ニ濕氣ヲ與フルルハ湯ノ浸潤容易ニシテ繰解佳良ナルヤ否ヤヲ確メ
トスルニアリ

一 麥繭分量試驗

繰絲工程中ニ於ケル麥繭ノ際其分量ノ多少ガ時間及絲量等ニ如何ナル結果ヲ來スヤ
ヲ知ラントスルニアリ

一 索緒湯温度高低試驗

落緒繭ニ等チ用非テ緒ヲ索ムルノ際其湯ノ温度ノ高低ガ如何ナル利害ヲ生ズルヤヲ
比較對照セントスルニアリ

一 繰絲湯清濁試驗

繰絲湯ノ清濁ガ繰絲工程及生絲ニ及ボス關係ヲ知ラントスルニアリ

一 繰絲中護膜質消耗量試驗

生絲繰製中繭ヨリ消散スル護膜質ノ量ヲ概知セントスルニアリ

一 夜間繰絲試驗

製絲場ニ於テ夜間燈火ノ下ニ操業スル場合ニ工程及其生絲ニ如何ナル結果ヲ來スヤ
ヲ知ラントスルニアリ

一 繰絲工場用蒸氣ノ壓力高低試驗

繰絲場ニ於テ蒸氣及繰絲用水ニ加温スル爲ニ用ユル蒸氣ノ壓力ノ高低ハ孰レヲ可ト
スルカヲ比較セントスルニアリ

一 結束絲試驗

生絲ノ括造ニ用フル所謂結束絲ノ各種ニ就キ其優劣ヲ比較セントスルニアリ

一 製絲用水質試驗

製絲用水中ニ含マルベキ種々ナル物質ニヨリテ生絲ノ色澤及手觸ニ及ボス關係ヲ確
メントスルニアリ

一 各地製絲場送付繭繰絲試驗

全国各地製絲場ニ於テ製絲上適當ト認メラレタル蠶繭ヲ蒐集シ實地試驗ヲ施シテ其
優劣ヲ攻究シ以テ種類改良ノ資ニ供セントスルニアリ

第三章 調 査

第一節 桑樹發芽及開葉ノ狀況

三十六年ノ初春ニ於ケル氣候ハ概シテ適順ナリシヲ以テ桑樹發芽及伸長ノ狀況ハ頗
ル良好ナリシ今其詳細ヲ掲クレバ左ノ如シ

桑樹發芽及開葉調查表 (其一早生種)

月日	大節			中節			小節		
	長芽	幅苞	數	長芽	幅苞	數	長芽	幅苞	數
三月廿六日	三〇芽	二芽		三芽	二芽		二芽	一芽	
三月廿九日	三〇芽	二芽		三芽	二芽		二芽	一芽	
四月一日	三〇芽	二芽		三芽	二芽		二芽	一芽	
四月四日	三〇芽	二芽		三芽	二芽		二芽	一芽	
四月七日	三〇芽	二芽		三芽	二芽		二芽	一芽	
四月十日	三〇芽	二芽		三芽	二芽		二芽	一芽	
四月十三日	三〇芽	二芽		三芽	二芽		二芽	一芽	
四月十六日	三〇芽	二芽		三芽	二芽		二芽	一芽	
四月十九日	三〇芽	二芽		三芽	二芽		二芽	一芽	
四月廿二日	三〇芽	二芽		三芽	二芽		二芽	一芽	
四月廿五日	三〇芽	二芽		三芽	二芽		二芽	一芽	
四月廿九日	三〇芽	二芽		三芽	二芽		二芽	一芽	

桑樹發芽及開葉調查表 (其二早生種)

月日	大節			中節			小節		
	長芽	幅苞	數	長芽	幅苞	數	長芽	幅苞	數
五月一日	七芽	二芽	七	七芽	二芽	七	七芽	二芽	七
五月四日	七芽	二芽	七	七芽	二芽	七	七芽	二芽	七
五月七日	八芽	二芽	八	八芽	二芽	八	八芽	二芽	八
五月十日	八芽	二芽	八	八芽	二芽	八	八芽	二芽	八
五月十三日	八芽	二芽	八	八芽	二芽	八	八芽	二芽	八
五月十六日	九芽	二芽	九	九芽	二芽	九	九芽	二芽	九
五月十九日	九芽	二芽	九	九芽	二芽	九	九芽	二芽	九
五月廿二日	九芽	二芽	九	九芽	二芽	九	九芽	二芽	九
五月廿五日	九芽	二芽	九	九芽	二芽	九	九芽	二芽	九
五月廿八日	九芽	二芽	九	九芽	二芽	九	九芽	二芽	九
五月卅一日	九芽	二芽	九	九芽	二芽	九	九芽	二芽	九

月日	大		中		小	
	芽苞	長芽	芽苞	長芽	芽苞	長芽
三月廿六日	三三	一五	二六	二四	二〇	一四
三月廿九日	三三	一五	二六	二四	二〇	一四
四月一日	三四	一五	二七	二四	二一	一四
四月四日	三三	一五	二八	二四	二二	一四
四月七日	三三	一五	二八	二四	二二	一四
四月十日	三三	一六	三二	二五	二四	一五

桑樹發芽及開葉調查表 (其中中生種)

月日	葉數	葉長	葉幅
五月十六日	八	三二	二二
五月十九日	八	三二	二二
五月廿二日	八	三三	二二
五月廿五日	八	三三	二二
五月廿八日	九	三三	二二
五月卅一日	一〇	三三	二二

月日	葉數	葉長	葉幅
三月廿九日	二六	二六	一六
四月一日	三〇	二五	一六
四月四日	三三	二六	一六
四月七日	三六	二六	一六
四月十日	三三	二〇	一六
四月十三日	三五	二〇	一六
四月十六日	二七	二〇	一六
四月十九日	四	二〇	一六
四月廿二日	六	二〇	一六
四月廿五日	六	二〇	一六
四月廿九日	七	二〇	一六
五月一日	七	二〇	一六
五月四日	七	二〇	一六
五月七日	八	二〇	一六
五月十日	八	二〇	一六
五月十三日	八	二〇	一六

五月十日	五月七日	五月四日	五月一日	四月廿八日	四月廿五日	四月廿二日	四月十九日	四月十六日	四月十三日	四月十日	四月七日	四月四日	四月一日	三月廿九日	三月廿六日
							六二	五四	四二	四三	四二	四二	三八	三六	三〇
							一九	一九	一七	一六	一五	一五	一三	一三	一三
						七五									
五	五	五	四	三	一										
二二九	二二七	一八二	四一五	三一六	九九										
一五九	一五八	一三四	一〇〇	七八	五二										
						五〇	四二	三四	三〇	二六	二五	二五	二五	二五	二二
						一六	一六	一五	一五	一四	一四	一四	一四	一四	一三
						八〇									
五	五	五	四	四	二										
二二九	二二六	一九二	四一六	三三二	九八										
一三七	一三四	一〇七	九二	七六	五〇										
							四五	三八	三三	二六	二六	二五	二五	二五	二二
							一七	一六	一五	一五	一四	一四	一四	一三	一三
						九八	七六								
七	七	七	六	五	四	三									
三三四	三三二	三二七	六一九	五一七	四一〇	九〇									
一五〇	一四八	一四一	一三〇	一二二	九〇	五九									

月 日

桑樹發芽開葉調查表 (其五中生種)

四月廿八日	五月一日	五月四日	五月七日	五月十日	五月十三日	五月十六日	五月十九日	五月廿二日	五月廿五日	五月廿八日	五月卅一日
六	六	七	七	七	七	八	八	八	八	八	九
一九六	三三六	二六〇	二六七	二七〇	二七二	二七八	二七九	二九二	二九五	三〇一	三二七
一九〇	二〇七	二二四	二二九	二二九	二三〇	二三四	二三五	二三七	二三八	三三一	三三五
五	五	六	六	六	六	六	六	六	六	七	八
一七四	一九四	二一九	二二三	二二七	二二八	二三二	二三四	二三六	二三九	二四二	二五二
一五二	一七二	一九二	一九五	一九六	一九六	一九六	一九六	一九六	一九八	一九八	一九八
六	七	七	七	七	七	八	八	八	八	八	八
一七三	一九四	二一九	二二三	二二七	二二八	二三二	二三四	二三六	二三九	二四二	二五二
一三一	一五一	一七一	一七二	一七二	一七二	一七二	一七二	一七二	一七二	一七二	一七二

日期	芽長	芽寬	芽數	葉長	葉寬	芽長	芽寬	芽數	葉長	葉寬	芽長	芽寬	芽數	葉長	葉寬
四月十日	四〇	一六													
四月十三日	五〇	一七													
四月十六日															
四月十九日															
四月廿二日															
四月廿五日															
四月廿八日															
五月一日															
五月四日															
五月七日															
五月十日															
五月十三日															
五月十六日															
五月十九日															
五月廿二日															
五月廿五日															

調查

五十一

日期	芽長	芽寬	芽數	葉長	葉寬	芽長	芽寬	芽數	葉長	葉寬	芽長	芽寬	芽數	葉長	葉寬
三月廿六日	二四	一四													
三月廿九日	二四	一四													
四月一日	二八	一四													
四月四日	二九	一五													
四月七日	三三	一五													
五月十三日															
五月十六日															
五月十九日															
五月廿二日															
五月廿五日															
五月廿八日															
五月卅一日															

調查

五十

桑樹發芽開葉調查表 (其六中生種)

月日	大		長芽	數	中		長芽	數	小		長芽	數
	長芽	幅苞			長芽	幅苞			長芽	幅苞		
三月廿六日	二二	二二										
三月廿九日	二二	二二										
四月一日	二二	二二										
四月四日	二六	二四										
四月七日	二九	二四										
四月十日	三三	二五										
四月十三日	三八	二六										
四月十六日	五〇	二七										
四月十九日			七四									
四月廿二日				三								
四月廿五日				三								
四月廿八日				四								
五月一日				五								
五月四日				五								

桑樹發芽開葉調查表 (其九晚生種)

月日	大		長芽	數	中		長芽	數	小		長芽	數
	長芽	幅苞			長芽	幅苞			長芽	幅苞		
五月七日				五								
五月十日				五								
五月十三日				五								
五月十六日				六								
五月十九日				六								
五月廿二日				七								
五月廿五日				七								
五月廿八日				七								
五月卅一日				七								

月日	大字			中字			小字		
	長芽	幅苞	長芽	長芽	幅苞	長芽	長芽	幅苞	長芽
三月廿六日	一六	一〇		一四	一〇		一四	一〇	
四月一日	二〇	一三		一七	一〇		一六	一〇	
四月四日	二〇	一三		一七	一〇		一六	一〇	
四月七日	二二	一三		一八	一〇		一七	一〇	
四月十日	二二	一三		一八	一〇		一七	一〇	
四月十三日	二二	一三		一八	一〇		一七	一〇	
四月十六日	二六	一三		二〇	一〇		一九	一〇	
四月十九日	三九	一四	五芽	二五	一四	五芽	二四	一三	五芽
四月廿二日									
四月廿五日									
四月廿八日									
五月一日									
五月四日									

桑樹發芽開葉調查表 (其十一晚生種)

月日	大字			中字			小字		
	長芽	幅苞	長芽	長芽	幅苞	長芽	長芽	幅苞	長芽
四月十九日									
四月廿二日									
四月廿五日									
四月廿八日									
五月一日									
五月四日									
五月七日									
五月十日									
五月十三日									
五月十六日									
五月十九日									
五月廿二日									
五月廿五日									
五月廿八日									
五月卅一日									

備考	四月廿二日	四月廿三日	四月廿四日	四月廿五日	四月廿六日	平均
本表ハ本所蠶種大部分ノ催青中ノ氣象ヲ示スモノナリ	六八	七七	七三	六五	六四	六四
	五四	四〇	四一	五四	五五	五五
	六〇、三	五九、六	五八、七	六一、二	六〇、二	五九、三
	八三、〇	七八、七	七二、七	七五、七	七四、三	七九、一
	六三	六六	七二	七二	七二	七二
	六〇	五三	五七	六六	七〇	七〇
	六一、五	五九、五	六四、〇	六八、〇	七二、〇	六八、八
	七四	八六	七六	七三	七七	七七
	六九	七二	六八	六八	六九	六九
	七二、五	七八、〇	七二、〇	七〇、〇	七三、〇	七九、〇
雨晴	晴	晴	雨	曇		

第三節 氣象

三十六年中ニ於ケル氣象左ノ如シ

昨三十六年ハ右表ノ如ク三四月ニ於テ氣候稍温暖ナリシヲ以テ蠶種ノ掃立ハ之レヲ
 平年ニ比スルニ約四五日間早シ

月	温		湿度		平均氣 動力	雨量	平均 雨量	平均日 照時數
	平均	最高	最低	最高				
一月	三、八	六、〇	二、二	一〇、〇	一、九	八〇、六	六、一	四、三
二月	三、八	六、四	二、〇	一〇、〇	一、九	九六、七	六、九	四、五

備考	三十三	三十四	三十五	全	十	十	十	九	八	七	六	五	四	三
表ハ總テ京都府立測候所ノ觀測ニヨリ調査セルモノナリ	年	年	年	年	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
	五、六、三	五、六、一	五、六、一	五、六、七	三、七、九	四、六、九	六、〇、三	七、四、八	七、九、二	七、三、八	六、七、五	五、九、四	五、五、八	四、七、三
	九四	九八	九三	九八	六〇	六九	八一	九八	九八	九一	八四	八〇	七三	七〇
	一七	一七	一五	一八	一八	二六	三三	五二	五七	五五	四四	三四	三四	二四
	七七	七八	七八	七八	七七	八二	八二	七八	七五	八四	七二	七三	七六	七五
	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	九八	九九	九八	九八	九九	九九	一〇〇
	二六	二六	二六	二三	三五	四〇	四〇	三九	三八	四八	三五	三〇	三〇	二三
	二、一	一、七	一、九	一、九	一、九	一、六	一、四	一、七	一、九	一、七	一、九	二、三	二、三	二、四
	一、五一、六	一、三六、七、八	一、五七、四、二	二、〇五、九、三	四六、九	八三、七	一四六、九	一七二、三	一三三、五	六二六、九	一五一、〇	二六六、八	一八〇、三	一九三、七
	六、五	六、二	六、五	六、八	五、二	四、九	六、八	七、二	五、五	八、九	七、七	七、二	七、六	七、五
六、一	五、八	五、六	五、五	四、六	五、五	四、九	六、三	九、〇	四、四	六、五	六、五	五、一	四、四	

湿度ハ濕潤ノ極度ヲ百度トシテ算出シタルモノナリ
 温濕兩度共ニ平均數ハ一晝夜六回觀測ノ平均ナリ
 温濕兩度共ニ最高最低ハ其極ヲ示ス
 氣動ハ「メートル」ヲ以テ示ス即チ一秒間ニ於ケル空氣流動ノ速力ナリ
 雨量ハ地上ニ降りタル雨水ノ高サヲ「ミリメートル」ヲ以テ示セルモノナリ
 雲量ハ十分ヲ以テ率トス即チ一點ノ雲ナキヲ零トシ滿天曇リタルヲ十トス
 日照時數ノ「コンマ」以下ハ十ヲ以テ率トス即チ四三ハ四時十八分ナルガ如シ

第四章 配付蠶種

明治三十六年度ニ於テ本所製造ノ蠶種ヲ配付シタル數ハ小石丸一万九千六百五十六
 蛾分青熟一万七千二百七十八蛾分角又一千六百二十四蛾分ニシテ此人員百二十七名
 ナリ而シテ一昨三十五年度ニ於テ配付ヲ受ケタル蠶種製造者ヨリ制規ニ基キ收購ヲ
 送付シタルモノ、内本所ニ於テ製絲試驗ヲ施シタルモノ、成績ハ左表ノ如シ
 因ニ日蠶種配付規則ハ三十五年十一月十九日農商務省令第二十二號ヲ以テ改正セ
 ラレ蠶業ニ關スル講習所試驗場及蠶種検査法ニ據ル蠶種製造者ハ同規則ニヨリ配
 付ヲ受ケルヲ得ベシ尙詳細ハ本報法令規則中ノ蠶種配付規則ヲ参照スベシ
 配付スベキ蠶種ハ當分ノ内小石丸青熟角又ノ三種トス其形狀ハ別紙寫眞圖ノ如シ
 圖ハ明治三十七年春期ニ於テ收購シタル繭ノ實物大ヲ示スモノナリ而シテ講習所
 試驗場ニ限リ以上三種ノ外他ノ品種ヲモ配付スルヲアルベシ

配付蠶種成績第一表

種別	掃下月日	室内平均温度	掃下蠶量	飼育日數	對蠶量一匁	府縣	飼育人氏名
小石丸	四月廿八日	六五	三、〇	三八日	四五、〇〇〇	京都	山添脇藏
小石丸	四月廿三日	六三	一一、〇	四三	—	大阪	原田耕十郎
小石丸	四月廿一日	六六	一六、〇	四一	四〇、〇九〇	全	中角正一
小石丸	五月一日	六七	九、〇	四〇	三九、五〇〇	石川	河崎時
青熟	五月一日	六八	三、二	三七	五〇、〇〇〇	富山	畑宗七郎
小石丸	四月廿五日	六八	一七、〇	四〇	四四、〇〇〇	福井	龍田七太郎
小石丸	四月十八日	六六	二、三	四〇	四一、〇五〇	高知	野中一馬
小石丸	四月廿九日	六八	四、〇	四〇	四五、五〇〇	島根	渡部榮三郎
小石丸	四月十七日	六八	六、五	三九	五一、六二二	熊本	高野小源治
角又	四月廿三日	六八	二、八	四〇	三八、七〇六	大分	近藤角馬

配付蠶種成績第二表

種別	一類 絲長			對四百回 纖維度			府縣	飼育人氏名
	最長	最短	平均	最太	最細	平均		
小石丸	四八五	四三五	四五七	三、三六	二、二九	一、九〇	京都	山添脇藏

備考	試驗ニ供シタル繭ハ各種五類ナリシ									
	角	小	小	小	小	青	小	小	小	小
	又	丸	丸	丸	丸	熟	丸	丸	丸	丸
額數	五八二	五五	五〇	四五〇	四四〇	五三六	五四〇	五〇	五〇	四七〇
重量	三四〇	二四五	四二五	三三〇	二八五	三三五	四四〇	三三五	三三五	二七〇
製糸時數	四二七	三三五	四六六	四〇六	三七六	四四九	四八一	四三九	四三九	三八八
生絲量	二八二	三九五	四三六	四〇五	二四四	四一〇	四一〇	三三一	三三一	三〇〇
緒絲量	二二五	四〇八	二七六	三三〇	二二一	三五六	二六五	二二八	二二八	二五九
蠶視量	一三七	二九二	二二七	二五三	一五一	二二二	一八八	二〇六	二〇六	一七九
揚繭額數	一九二	三三二	二六四	二八三	一八六	二六九	二四一	二一九	二一九	二二〇
空繭量	〇	五〇	五七	三二	三四	七五	一三	七八	七八	八二
平均繭量	〇.二二	〇.七	〇.二二	一.二	二.八	〇.三	〇.四	〇.八	〇.八	〇.八
府縣	大分	熊本	島根	高知	福井	富山	石川	全	全	大阪
飼育人名	近藤角馬	高野小源治	渡部榮三郎	野中一馬	龍田七太郎	畑宗七郎	河崎時	中角正一	中角正一	原田耕十郎

配付繭種成績第三表

種別	繭		製糸時數	生絲量	緒絲量	蠶視量	揚繭		平均繭量	府縣	飼育人名	
	額數	重量					額數	空繭量				
小石丸	三三〇	三六〇	一三五	一〇七	一五〇	一九四	五	〇.二二	九	〇.一六	一七五〇	大阪 原田耕十郎
小石丸	三〇六	三五〇	一五二	一〇七	一五〇	一九四	四	〇.一七	九	〇.一七	一八〇〇	京都 山添勝藏

備考	本試驗ニ供シタル繭ハ各一升ツ、ナリシ繭絲ハケンネル式四緒繭ニシテ一分時間小變ノ回轉數平均二百七十三回小變ノ周圍ハ一尺九寸八分ナリトス									
	角	小	小	小	小	青	小	小	小	小
	又	丸	丸	丸	丸	熟	丸	丸	丸	丸
額數	三三二	三〇二	二八六	二九六	三〇六	三三六	三〇〇	三三四	三三二	二九六
重量	三四〇	三九〇	三九〇	三六〇	二九四	三四〇	三八〇	三三四	三三二	三三四
製糸時數	二二三	二二八	一四六	一五二	二四三	二二〇	一四七	二〇〇	二〇〇	九七六
生絲量	一〇.六三	九.七八	一〇.九一	一〇.六四	七.七三	八.三三	一一.三三	九.七六	九.七六	一八.四
緒絲量	一六.八	三三.一一	一七.〇	一四.八	二八.〇	二八.〇	一〇.九	一〇.八	一〇.八	一七.七
蠶視量	二	八	三	八	四	二	二	九	九	〇.二〇
揚繭額數	〇.〇六	〇.二六	〇.一〇	〇.三三	〇.〇六	〇.〇五	〇.〇五	〇.二二	〇.二二	〇.三三
空繭量	七	二八	六	五	七	九	〇.一五	〇.一五	〇.一五	二.〇〇
平均繭量	一.七五	一.七五	一.八五	一.八〇	一.三〇	一.三〇	一.一〇	一.一〇	一.一〇	一.六七
府縣	大分	熊本	島根	高知	福井	富山	石川	全	全	大阪
飼育人名	近藤角馬	高野小源治	渡部榮三郎	野中一馬	龍田七太郎	畑宗七郎	河崎時	中角正一	中角正一	原田耕十郎

第五章 出張

本年度ニ於ケル所員出張ノ件數ハ九十四件ニシテ其内譯左ノ如シ

出張

講習 一二三件
 調査及視察 二七件
 事務打合 一三件

第六章 質問應答

本年度ニ於テ管轄區各府縣當業者又ハ團體等ノ爲セル質問ニ對シ各專門技術官ヲシテ調査セシメ應答セルモノ左ノ如シ

人員 三一五
 件數 一〇四五

第七章 鑑定

本年度ニ於テ管轄各府縣當業者又ハ團體等ノ出願ニ依リ器械器具其他ニ對シ鑑定ヲ與ヘタルモノ八件アリ

寒暖計及乾濕計 一件
 消毒藥品 一件
 消毒器械 六件

第八章 雜件

第一節 文書ノ往復

本年度ニ於テ取扱ヒタル文書ハ六千八百二十四件ニシテ其内譯左ノ如シ

接 受 三二一六
 發 遣 三六〇八

第二節 來觀人員

本年度ニ於ケル來觀人員ハ三千百九十二人ニシテ之ヲ各月ニ平均スレバ二百六十六人ニ當レリ

第三節 書籍刊行

本年度ニ於ケル夏秋蠶ニ關スル試驗ノ成績ヲ編纂シ蠶事報告第四號ト題シ之レヲ印刷ニ付シテ官衙公署當業者ニ配布セリ

第九章 土地及建物

明治三十六年度末現在本所敷地及桑園並建物ノ坪數等左ノ如シ(別紙圖面參照)

第一節 敷地

一敷地 四千三百四十三坪四合一勺
 一桑園 一万二千八百十二坪三合五勺
 計 一万七千五百五十三坪六合六勺

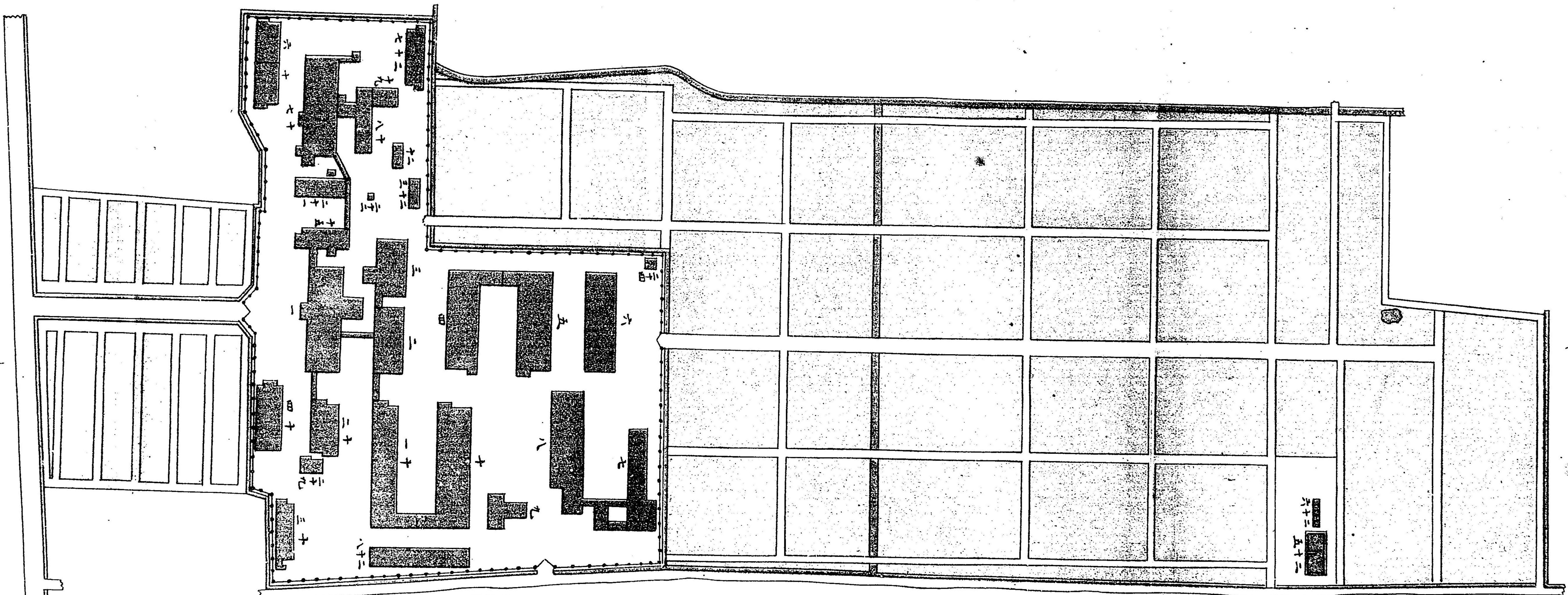
第二節 建物

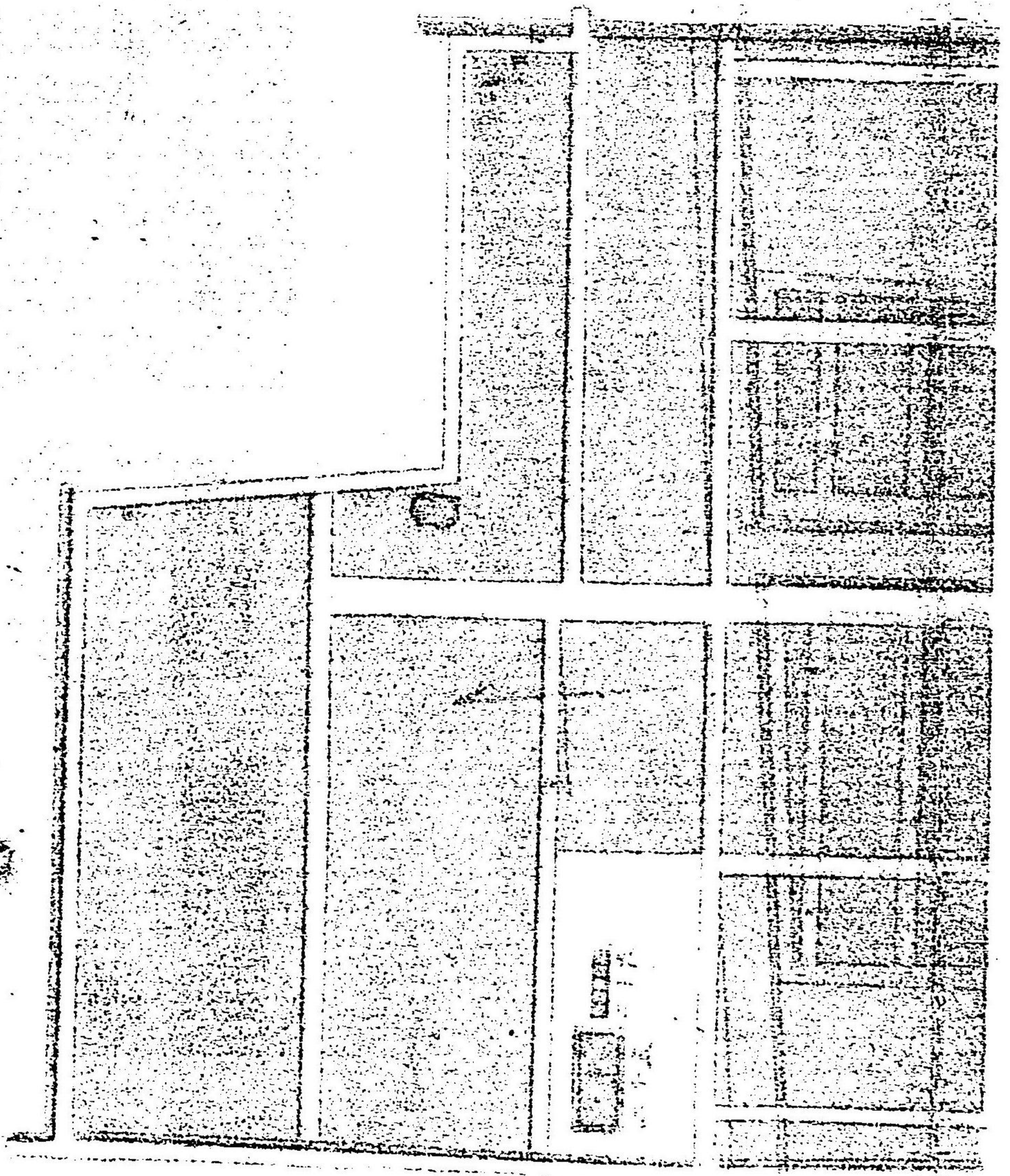
一舍監舍	二十坪七合五勺
一第一寄宿舍	八十一坪五合
一會食所炊事所浴室洗面所渡り廊下舍監宿直室診察室	七十八坪五合
一第二寄宿舍	廿五坪八合八勺
一第三寄宿舍	五十坪
一第四寄宿舍	三十一坪
一廳舍	九十二坪
一物置	廿四坪
一渡廊下	五坪
一宿直室小使室湯香所廁井戸屋形渡り廊下	四十三坪
一廁	〇坪五合
一教室	五十七坪

京都嵯峨業講習所構内平面圖

凡例

一	事務室	十一號球技室	三	寶物室
二	教室	十二號演習室	四	演習場
三	化學實驗室	十三號寫字室	五	演習室
四	學傳書室	十四號本室	六	演習室
五	演習室	十五號直室	七	演習室
六	演習室	十六號寫字室	八	演習室
七	會食室	十七號演習室	九	演習室
八	第一高宿舍	十八號鐘室	十	演習室
九	第一官舍	十九號柳室	十一	演習室
十	演習室	二十號演習室	十二	演習室
			十三	演習室
			十四	演習室
			十五	演習室
			十六	演習室
			十七	演習室
			十八	演習室
			十九	演習室
			二十	演習室
			二十一	演習室
			二十二	演習室
			二十三	演習室
			二十四	演習室
			二十五	演習室
			二十六	演習室
			二十七	演習室
			二十八	演習室
			二十九	演習室
			三十	演習室
			三十一	演習室
			三十二	演習室
			三十三	演習室
			三十四	演習室
			三十五	演習室
			三十六	演習室
			三十七	演習室
			三十八	演習室
			三十九	演習室
			四十	演習室
			四十一	演習室
			四十二	演習室
			四十三	演習室
			四十四	演習室
			四十五	演習室
			四十六	演習室
			四十七	演習室
			四十八	演習室
			四十九	演習室
			五十	演習室
			五十一	演習室
			五十二	演習室
			五十三	演習室
			五十四	演習室
			五十五	演習室
			五十六	演習室
			五十七	演習室
			五十八	演習室
			五十九	演習室
			六十	演習室
			六十一	演習室
			六十二	演習室
			六十三	演習室
			六十四	演習室
			六十五	演習室
			六十六	演習室
			六十七	演習室
			六十八	演習室
			六十九	演習室
			七十	演習室
			七十一	演習室
			七十二	演習室
			七十三	演習室
			七十四	演習室
			七十五	演習室
			七十六	演習室
			七十七	演習室
			七十八	演習室
			七十九	演習室
			八十	演習室
			八十一	演習室
			八十二	演習室
			八十三	演習室
			八十四	演習室
			八十五	演習室
			八十六	演習室
			八十七	演習室
			八十八	演習室
			八十九	演習室
			九十	演習室
			九十一	演習室
			九十二	演習室
			九十三	演習室
			九十四	演習室
			九十五	演習室
			九十六	演習室
			九十七	演習室
			九十八	演習室
			九十九	演習室
			一百	演習室





- 一 渡廊下
- 一 化學實驗室
- 一 有毒物分解室
- 一 第一傳習蠶室
- 一 第二全
- 一 第三全
- 一 第一試驗蠶室
- 一 第二全
- 一 培養基置場
- 一 第三試驗蠶室
- 一 製糸室
- 一 貯繭室
- 一 汽罐室
- 一 殺蛹乾燥室
- 一 薪炭室
- 一 養蠶室

- 五坪
- 五十坪五合
- 〇坪三合五勺
- 九十八坪
- 八十三坪
- 八十三坪
- 八十坪
- 三十五坪
- 十一坪
- 七十五坪
- 八十五坪五合
- 四十二坪
- 二十二坪五合
- 二十二坪
- 八坪
- 十坪

土地及建物

- 一 肥料舎
- 一 堆肥舎
- 一 水肥舎
- 一 貯桑室

- 四坪
- 十八坪
- 三坪五合
- 四十五坪

第三節 蠶室圖解

本所ノ蠶室ハ前記ノ如ク現今六棟アルモ今其内一棟ヲ撰ミテ構造ノ大畧ヲ圖解スベシ尙本蠶室以外ノ蠶室及製糸場蠶具製糸機械等尙モ参考ニ資スベキモノハ今後發刊ノ事蹟報告ニ記スベシ

第二傳習蠶室

桁行拾五間梁間五間ノ本家ト桁行三間梁間二間ノ貯桑所及桁行二間梁間一間ノ昇降口トテ合セテ建坪八拾三坪アリ屋根ハ何レモ瓦葺ニシテ屋根上ニ空氣抜ヲ設クルコト如圖

本家ノ内東端二間ニ五間ノ十坪ハ剉桑所ニ充テ中央部ニ二間半ニ三間ノ蠶室五ヶ所ヲ連續設置シ北側及ヒ南側ハ巾一間西側ハ巾半間ノ廊下ヲ附ス

蠶室ノ構造ハ各室互ニ高サ六尺ノ板戸ヲ以テ境界トシ板戸ノ上部天井ニ至ルマデテ壁トス廊下トノ境界ハ高サ六尺ノ普通紙張ノ障子ヲ用非其上ニ二尺ノ欄間ヲ設ケテ

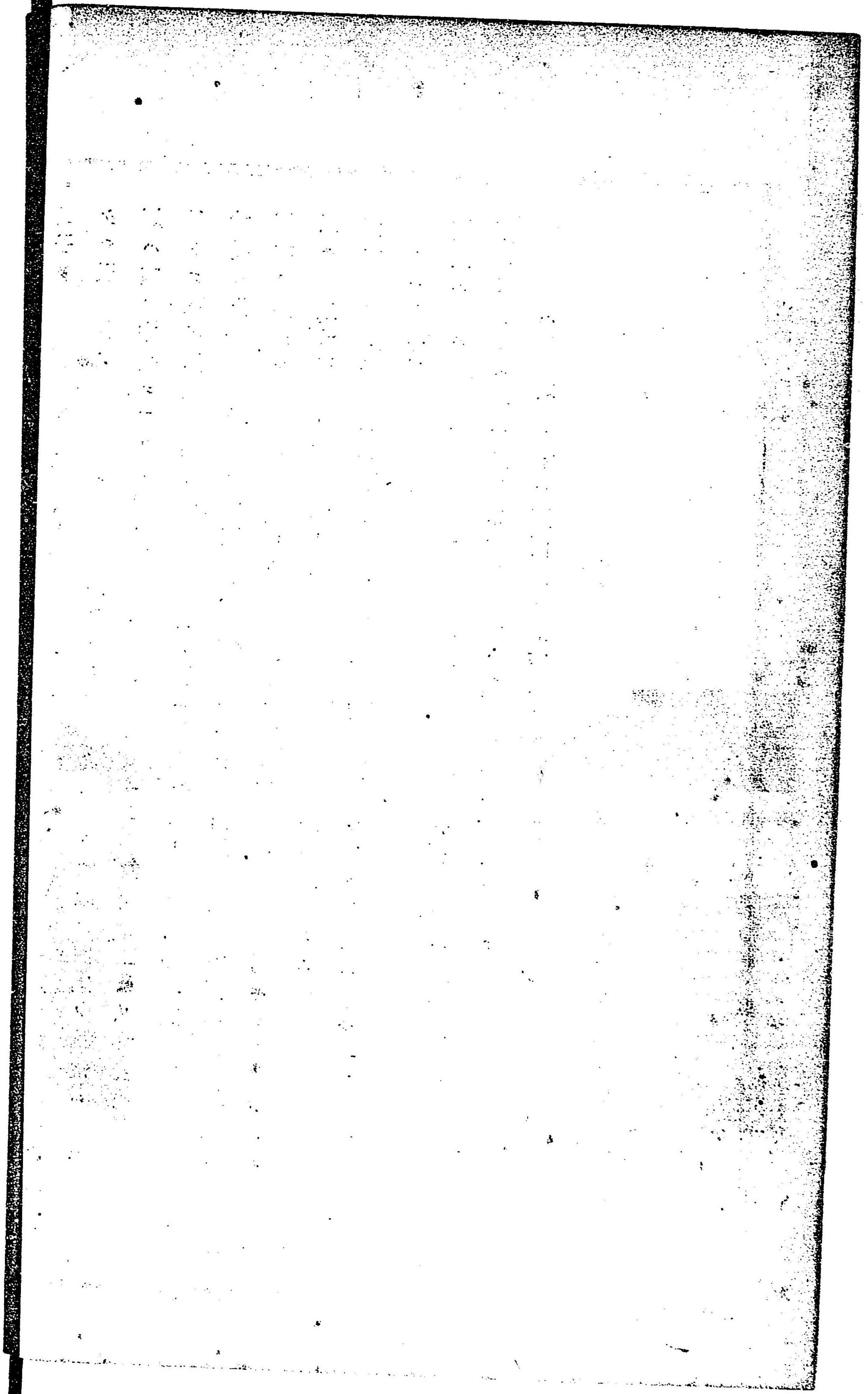
障子ヲ建ツ而テ天井ノ四隅ニ各方一尺五寸ノ窓一ヶ所中央ニ方三尺ノ窓一ヶ所ヲ設ケテ五分目ノ鐵網ヲ張り尙板戸ヲ附シテ開閉自由トシ以テ空氣ノ流通ニ便ス

炉ハ室ノ中央ニアリ構造ハ煉瓦厚長手一枚積ニシテ内法巾二尺八寸長四尺五寸深二尺トス蓋ハ厚板ヲ用非手掛環ヲ付シ裏ニ鐵板ヲ張ル炉ノ上部ニ於テ前後ノ巾二尺八寸長サ五尺深サ七寸ノ空處ヲ設ケ板蓋ヲナシ其兩端二枚ニハ溝形三條ヲ切り開キテ炉中ノ空氣ヲ牀上ニ出テシムル裝置トス而メ炉内ニ空氣ヲ誘ハシガ爲メニハ鐵板ヲ以テ徑二寸五分ノ管ヲ造リ前記ノ空處ヲ經テ屋外ニ達セシム

南北廊下ノ外側ニハ高サ六尺ノ腰板入硝子障子ヲ建テ其上ニ高サ一尺五寸ノ欄間ヲ設ケテ硝子障子ヲ建ツ

階上ハ凡テ境界ヲ設クルコトナク又天井ノ設ケナシ光線ハ屋根上ノ空氣抜及南北兩側ニ設ケタル高サ二尺巾七尺五寸ノ硝子窓十ヶ所ヨリ採ル

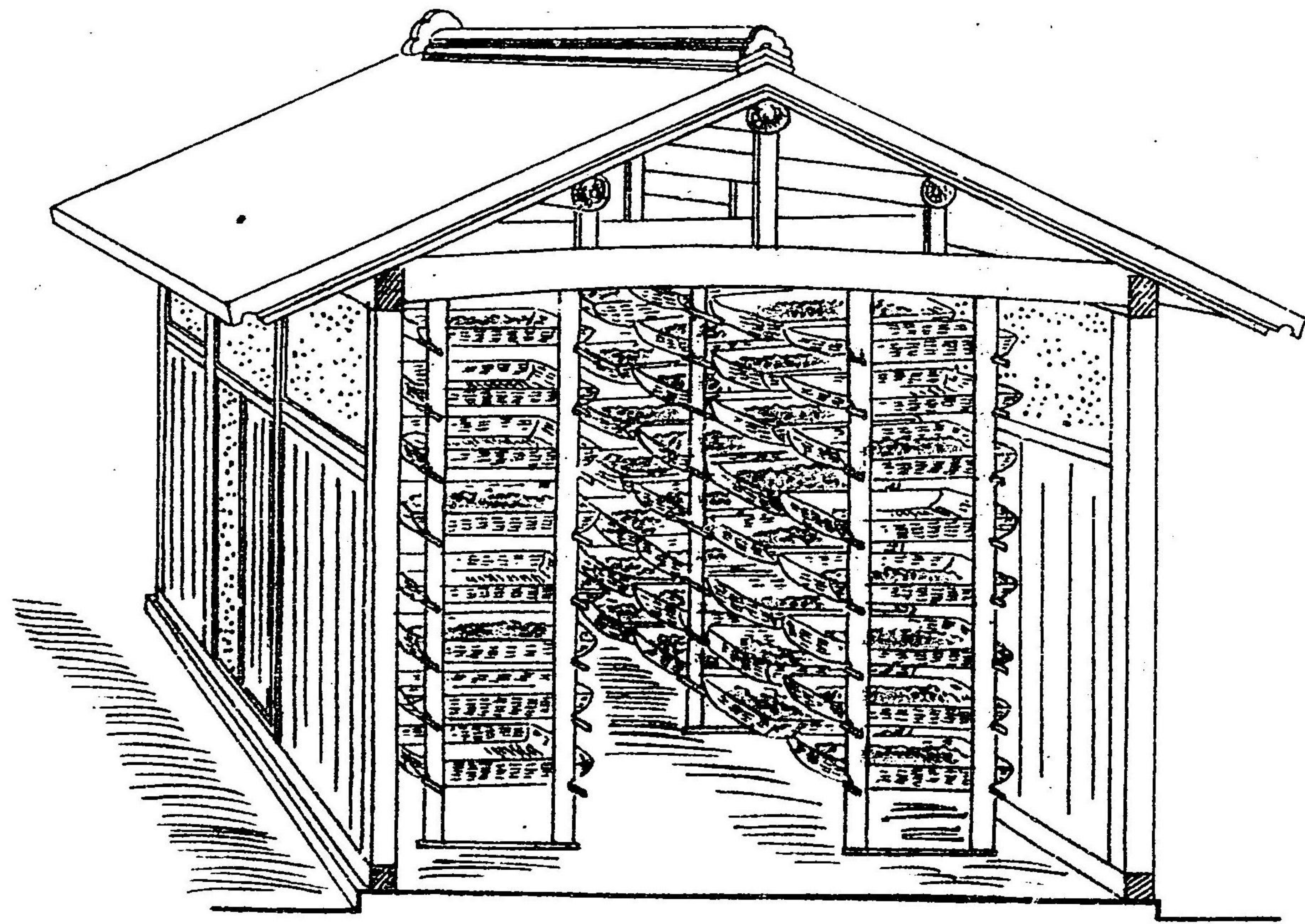
貯桑所ハ煉瓦敷ニシテ東西南ノ三方ニ架テ設ケ貯桑籠ヲ置ク



圖細精室蠶習傳貳第

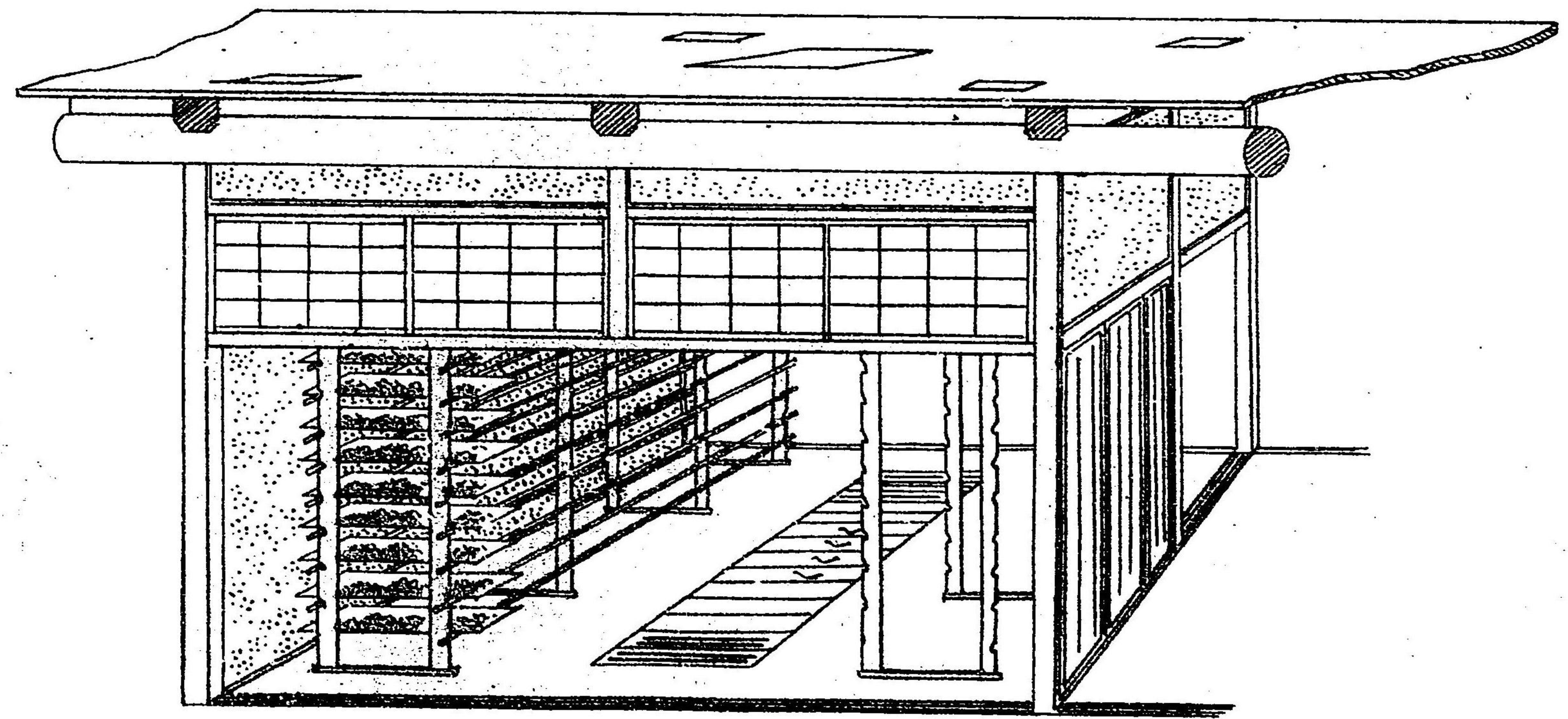
圖景配行平所桑貯

一、分拾五尺縮

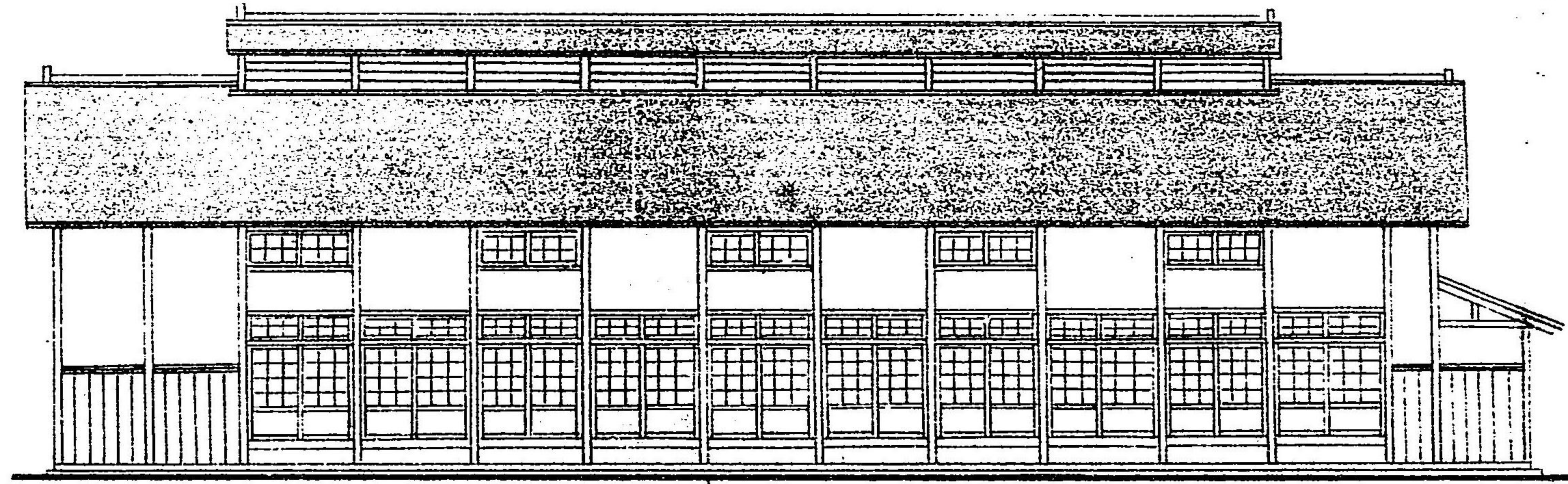
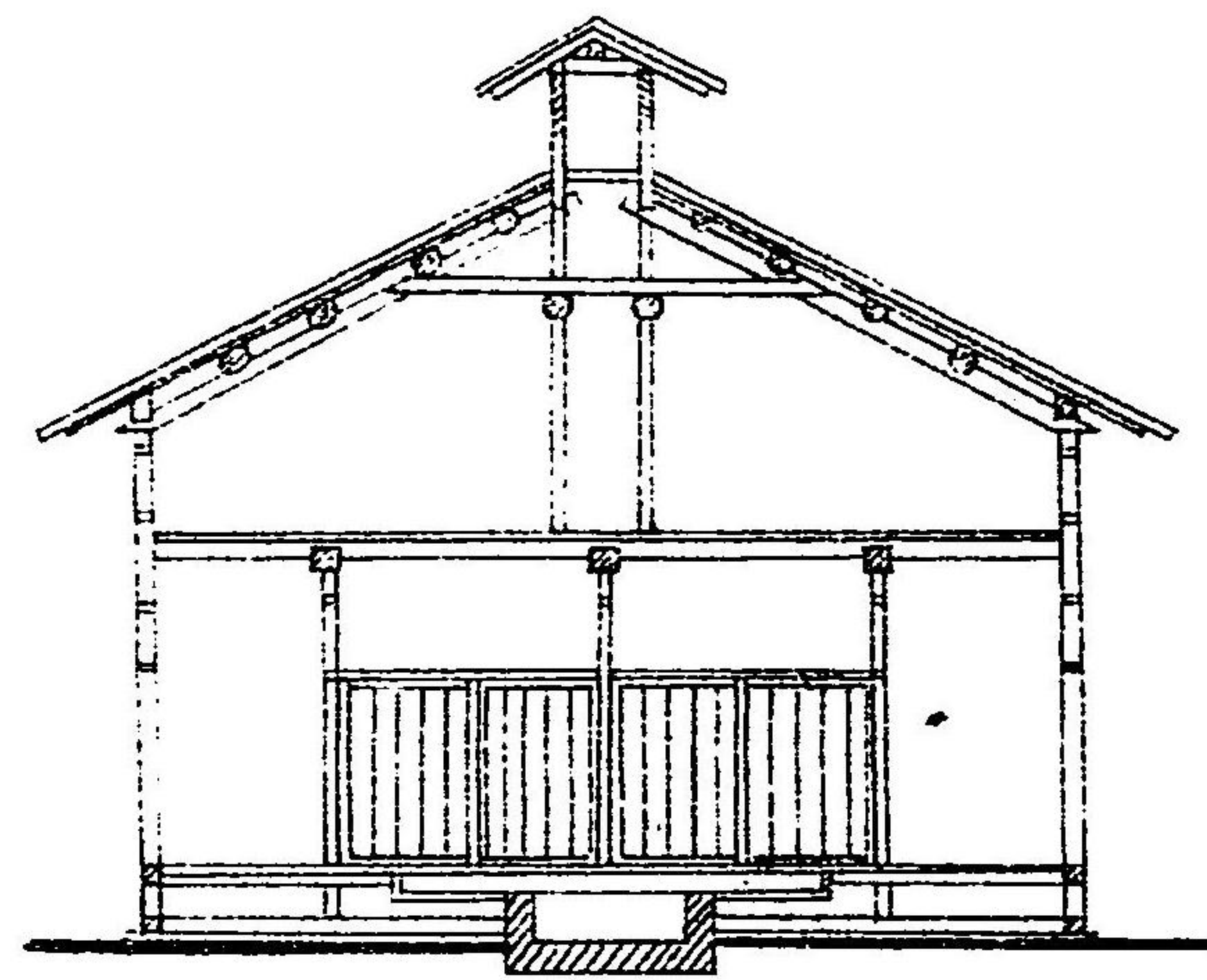


圖景配行平室蠶

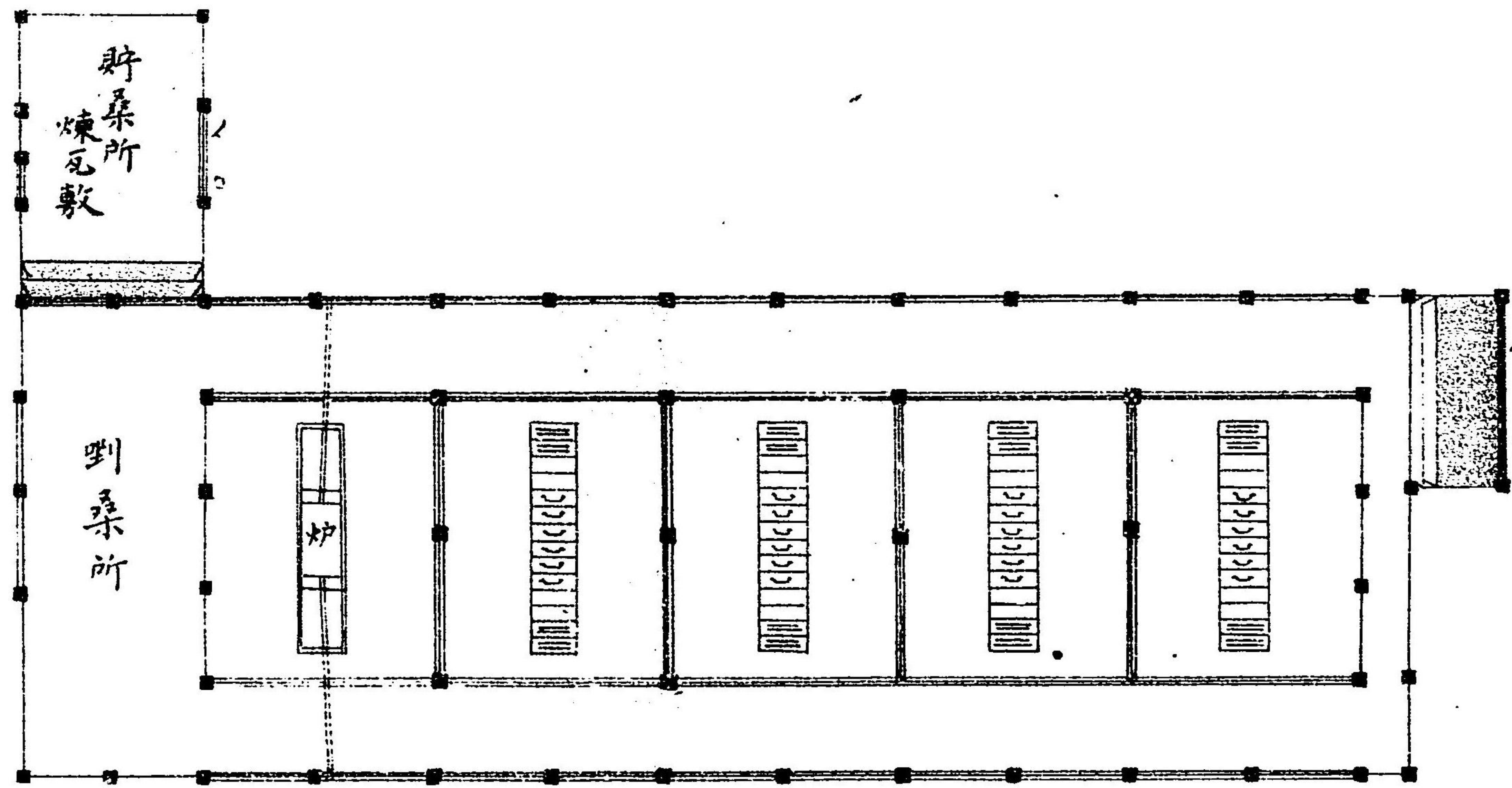
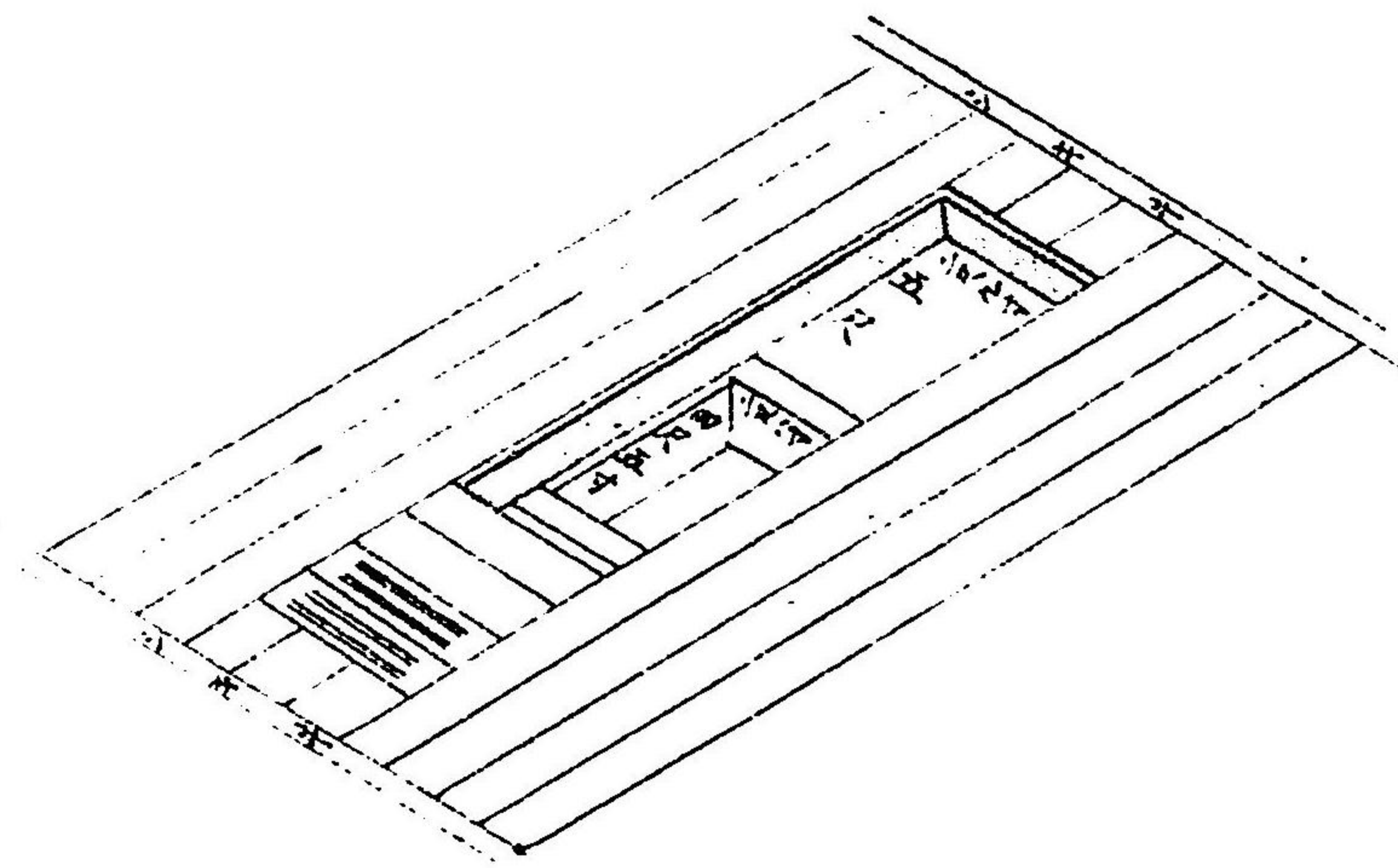
一、分拾五尺縮



第貳傳習室之圖
縮尺貳百分之壹



爐之圖
百分之壹



附 録

本所ニ關スル法令規則

官 制

勅令第二十八號

明治二十九年三月二十七日勅令第八十九號ヲ以テ改正
三月十八日(三十二年三月二十七日勅令第百六號ヲ以テ改正)

第一條 蠶業講習所ハ二箇所トス農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一 蠶絲業ニ關スル講習

二 蠶絲業ニ關スル試験及調査

三 巡回講話

四 蠶種配布

五 質問應答

第二條 蠶業講習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所 長

技 師

舍 監

技 手

本所ニ關スル法令規則

書記

第三條 所長ハ一人技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ掌ル

第五條 舍監ハ技師技手又ハ書記ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ講習生ノ取締ヲ掌ル

第六條 技手ハ上官ノ命ヲ承ケ所務ニ従事ス

第七條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第八條 蠶業講習所ヲ通シテ專任技師十一人專任技手十七人專任書記七人ヲ以テ定員トス

第九條 蠶業講習所ノ位置及名稱ハ農商務大臣之ヲ定ム

蠶業講習所ノ司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表スル件

農商務省令第一號 明治三十一年一月二十八日

蠶業講習所ハ其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

蠶種配付規則

農商務省令第五號

明治二十九年(三十年五月一日省令第三號ヲ以テ第七條追加)五月八日(三十五年十一月十九日省令第二十二號ヲ以テ改正)

第一條 蠶業講習所ニ於テ製造スル蠶種ハ原種トシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ限り無代價ニテ配付ス

一 蠶種検査法ニ依ル蠶種製造者

一 蠶種業ニ關スル學校講習所傳習所又ハ試驗場

第二條 蠶種ノ配付ヲ請求セントスル者ハ管轄道府縣廳ノ證明ヲ得テ毎年四月十五日迄ニ種名及蛾數ヲ明記シ所轄蠶業講習所ニ出願スベシ

第三條 蠶種ノ配付ハ請求者一名ニ付五百蛾以内トス

第四條 蠶種ノ配當ハ出願ノ順序ニ依リ之ヲ定ム

第五條 配當ヲ受クルコト能ハザル者ニハ九月三十日迄ニ其旨ヲ通知スベシ

第六條 蠶種ノ配付ヲ受ケタル者ハ別記雛形ノ飼育成蹟表ニ其蠶種ヨリ得タル繭二升ヲ添付シ翌年八月三十一日限り所轄蠶業講習所ニ報告スベシ但數種類ノ配付ヲ受ケタル者ハ一種類毎ニ本文ノ手續ヲナスベシ

第七條 前條ノ義務ヲ履行セザル者ハ爾後三箇年間蠶種ノ配付ヲ受クルコトヲ得ズ

第七條 第一條第二號ニ該當スル者ノ出願ニ對シテハ第二條ノ證明及期日並第五條ノ繭添付ニ關スル規程ヲ適用セズ

(別記) 配付蠶種成績表

事記	度温			桑		給		飼育		上簇		掃立		種		道廳(府縣)郡(市)町(村)何某
	平均	最低	最高	蠶一匁ニ對スル量	總量	回数	日數	日數	日數	日數	日數	日數	種額	種額		

種製	繭				收				普通製
	上繭	下繭	同功繭	合計	上繭	下繭	同功繭	合計	
重	容	重	容	重	容	重	容	重	容

右之通候也
 明治 年 月 日
 東京(京都)蠶業講習所御中
 右 何 某 印

備考 記事欄内ニハ左記事項ノ要點ヲ記載スベシ

- (一) 蠶種ノ貯藏 (蠶種ヲ受取リタル後ノ貯藏法)
- (二) 蠶種ノ催青 (催青ノ日數及其温度)
- (三) 飼育中ノ氣候 (氣候ノ順否晴雨寒暖其他著シキ氣象狀況)
- (四) 上簇中ノ氣候 (晴雨乾濕及寒暖)
- (五) 飼育法 (火力使用ノ有無及多少又ハ特種ノ飼育法ヲ爲セルトキハ其概要)
- (六) 用法 (用桑ノ重モナル種類並ニ根刈高刈立通等ノ別)
- (七) 蠶兒ノ發育狀況各齡期ニ於ケル發育ノ遲速及齊否
- (八) 病 蠶 (各齡期ニ於テ生セル病蠶ノ種類並ニ其多寡)

處務規程

- 農商務省訓令第九號 明治二十九年四月十三日訓令第十三號
 第一條 蠶業講習所ニ養蠶製絲ノ二部及報告庶務ノ二課ヲ置ク
- 第二條 養蠶部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 養蠶業ニ關スル學理及實地ノ講習
 - 一 養蠶業ニ關スル試驗及調査
 - 一 養蠶業ニ關スル巡回講話

一 蠶種配付

一 養蠶業ニ關スル質問應答

第三條 製絲部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 製絲業ニ關スル學理及實地ノ講習

一 製絲業ニ關スル試験及調査

一 製絲業ニ關スル巡回講話

一 製絲業ニ關スル質問應答

第四條 報告課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 養蠶製絲ニ關スル諸報告ノ編纂

一 圖書報告書類ノ保管

一 養蠶製絲ニ關スル統計

第五條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 公文書類及成案文書ノ接受發送ノコト

一 所員進退出張等ニ關スルコト

一 其他養蠶製絲ノ二部及報告課ニ關セザル事項

第六條 蠶業講習所長ハ官制ノ定ムル所ニ從ヒ主管事務ノ處理ニ付其責ニ任ス

第七條 蠶業講習所長事故アルトキハ部下ノ官吏ニ代理ヲ命ジ又主管事務ノ幾分ヲ

委任シ自己ノ名義ヲ以テ之ヲ處辨セシムルコトヲ得

第八條 蠶業講習所長ハ部下ノ官吏ノ歸省看護墓參轉地療養願ヲ許可シ及除服出仕

ヲ命ズルコトヲ得

第九條 蠶業講習所長ハ月俸貳拾圓又ハ日給五拾錢ヲ超エザル傭員ノ採用解免ハ之

ヲ專行スルコトヲ得

第十條 蠶業講習所長ハ事務處理ノ爲メ經伺ノ上所中處務細則及講習規程ヲ設クル

コトヲ得

第十一條 蠶業講習所長ハ傳習生ノ募集人員ヲ定メ農商務大臣ノ承認ヲ請フベシ

第十二條 蠶業講習所長ハ試験項目及其擔任者ヲ定メ農商務大臣ニ報告スベシ

第十三條 試験成績ハ各擔任者ニ於テ試験終了ノ日ヨリ二箇月以内ニ蠶業講習所長

ニ報告スベシ

第十四條 蠶業講習所長ハ試験成績ヲ審査編纂シ毎年一回農商務大臣ニ報告スベシ

但臨時緊要ト認ムル試験成績ハ時々報告スベシ

第十五條 蠶業講習所長ハ毎年配付蠶種ノ枚數ヲ定メ配付ノ手續ヲナスベシ

第十六條 蠶業講習所長ハ卒業シタル生徒ニ交付スベキ證書ニ署名スベシ

第十七條 蠶業講習所長ハ其主管事務ニ付各管廳ニ照會往復スルコトヲ得

第十八條 巡回講話若クハ講習會品評會等ノ爲メ旅費ヲ支辨シ所員ノ出張巡回ヲ申出ル者アルトキハ所長ニ於テ許否ヲ所長出張巡回ヲ要スル場合ニ於テハ日數十日以内ナルトキハ其旨ヲ農商務大臣ニ報告シ十日ヲ超ユルトキハ認可ヲ請フベシ

第十九條 蠶業講習所長ハ所務ノ爲メ所員ノ出張巡回ヲ命スルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ請フベシ

但至急ヲ要シ經伺ノ暇ナキ場合ニ於テハ所長之ヲ命シ其旨農商務大臣ニ報告スベシ

第二十條 農商務大臣ニ經伺又ハ報告ヲ要スル事項ハ總テ農務局長ヲ經由スベシ

附 則

本規程ノ製絲部ハ當分ノ内東京蠶業講習所ニノミ之ヲ置キ京都蠶業講習所ニ於テハ製絲ニ關スル事務ハ養蠶部ニ於テ之ヲ掌ル

蠶業講習所ノ巡回講話及生徒募集

農商務省訓令第十三號

北海道廳府縣

沖繩縣

明治二十九年五月一日

蠶業講習所ノ巡回講話及生徒募集ニ付テハ左ノ事項ヲ心得ベシ
一、 蠶業講習所長ヨリ蠶業講話ノ爲メ技術官ノ派出ノコトヲ通知シタルトキハ地

方長官ハ所長ト打合ノ上講話ノ場所及期日ヲ定メ管内ニ告知スベシ

二、 巡回講話等ノ爲メ旅費ヲ支辨シテ技術官ノ派出ヲ要スルトキハ蠶業講習所長ニ其旨ヲ移牒スベシ

三、 蠶業傳習生ノ募集ハ蠶業講習所長ノ通牒ニ依リ地方長官其手續ヲ爲スベシ

蠶業講習所位置及名稱

農商務省告示第六十一號

明治三十二年六月二十九日

蠶業講習所位置及名稱左ノ通相定ム

名 稱 位 置

東京蠶業講習所

東京府下北豊島郡瀧野川村元西ヶ原

京都蠶業講習所

京都府下葛野郡衣笠村

蠶業講習所管轄區域

農商務省告示第六十六號

明治三十二年七月五日

蠶業講習所ノ巡回講話蠶種配付質問應答等ニ關スル事務ハ左ノ區域ニ據リ其蠶業講習所ニ於テ之ヲ取扱フ

東京蠶業講習所

北海道廳

東京府

神奈川県

新潟縣

埼玉縣

群馬縣	千葉縣	茨城縣	栃木縣	靜岡縣
山梨縣	長野縣	宮城縣	福島縣	岩手縣
青森縣	山形縣	秋田縣	福島縣	
京都蠶業講習所				
京都府	大阪府	兵庫縣	長崎縣	奈良縣
三重縣	愛知縣	滋賀縣	岐阜縣	福井縣
石川縣	富山縣	島取縣	岐阜縣	福井縣
廣島縣	山口縣	愛媛縣	島根縣	岡山縣
和歌山縣	高知縣	福岡縣	德島縣	香川縣
熊本縣	宮崎縣	鹿兒島縣	大分縣	香川縣
			沖繩縣	佐賀縣

蠶業講習所講習規程 明治二十九年 五月二十六日
(三十二年六月二十二日改正)
(三十五年六月二十四日改正)

第一章 總則

第一條 本所講習ハ養蠶講習科及製絲講習科ノ二トシ更ニ各科ヲ分テ本科別科ノ二トス

第二條 養蠶講習科ハ養蠶ニ製絲講習科ハ製絲ニ關スル學理及技術ヲ講習ス

第三條 講習生ノ定員ハ左ノ如シ

- 一、養蠶講習科
 - 本科(男生) 五十名
 - 別科(男生) 六十名以內
- 二、製絲講習科
 - 本科(男生) 四十名
 - 本科(女生) 二十名
 - 別科(女生) 四十名以內

第四條 講習期間ハ左ノ如シ

- 一、養蠶講習科
 - 本科 二箇年
 - 別科 六箇月
- 二、製絲講習科
 - 本科 二箇年
 - 別科 十箇月

第五條 講習生ノ學費ハ自辨トス但講習料ヲ徵收セス

別科

第一期 自四月十一日 至四月十五日
 第二期 自四月十六日 至七月三十一日

二、製絲講習科
 本科

第一年

第一期 自十二月廿四日 至十二月卅一日
 第二期 自一月八日 至一月十五日
 第三期 自四月十六日 至七月三十一日

第二年

自十二月廿四日 至十二月卅一日
 自一月八日 至一月十五日
 自四月十六日 至七月三十一日

別科

第一期 自十二月廿四日 至十二月卅一日
 第二期 自一月八日 至一月十五日
 第三期 自四月十六日 至七月三十一日

第九條 休業日ハ左ノ如シ
 冬期休業 自十二月廿五日 至一月七日
 夏期休業

養蠶講習科 自九月三十日 至九月三十日

製紙講習科 自八月卅一日 至八月卅一日

日曜日（養蠶講習科ハ養蠶實習中製絲講習科ハ殺蛹乾繭實習中休業セス）
 大祭祝日
 蠶業講習所官制公布紀念日 三月十八日

第四章 募集及入學

第十條 入學試験ハ毎年地方廳ニ於テ執行ス其ノ時期左ノ如シ

一、養蠶講習科

本科 八月中
 別科 十二月中

二、製絲講習科

本科 八月中
 別科 八月中

第十一條 入學志願者ハ品行方正ニシテ在學中家事ノ係累ナク志願者身體検査規定ニ合格セル者ニシテ左ノ資格ヲ有スル者タルベシ
 一、養蠶講習科

本科

- 一、 滿二十一年以上ノ者
- 二、 三箇年以上養蠶ニ從事シタル者
- 三、 中學卒業生相當以上ノ學力ヲ有スル者

別科

- 一、 滿二十五年以上ノ者
- 二、 三箇年以上養蠶ニ從事シタル者
- 三、 中學三年生相當以上ノ學力ヲ有スル者

本科

- 一、 男子ハ滿二十一年以上女子ハ滿十八年以上ノ者
- 二、 三箇年以上製絲ニ從事シタル者
- 三、 男子ハ中學卒業生相當以上女子ハ高等小學卒業生相當以上ノ學力ヲ有スル者

別科

- 一、 滿二十年以上ノ者

- 二、 三箇年以上優等製絲工女アリシ者

- 三、 尋常小學卒業生相當以上ノ學力ヲ有スル者

第十二條 志願者身體検査規定ハ左ノ如シ

身體強壯ニシテ左記ノ各項ニ牴觸セサル者タルヘシ

- 一、 結核、咯血、癲癩、梅毒、傳染性皮膚病、其ノ他著シキ傳染性疾患アル者又ハ心肺ノ著シキ疾患、肋膜炎後ノ障害甚シキ者、其ノ他動作ニ堪ニサル疾患アル者
- 一、 發育不全ニシテ薄弱ナル者、高度ノ脂肪肥滿ナル者、四肢ノ著シキ彎曲又ハ不同或ハ甚シク筋肉薄弱ナル者、手指ノ缺損若ハ畸形ナル者、下肢靜脈ノ怒張著シキ者、等總テ動作ニ堪ニサル者

一、 精神ノ異狀、言語障害又ハ甚シキ訥吃アル者

一、 片眼若ハ兩眼ノ視力妨ケアル者又ハ色盲アル者、但視力ハ眼鏡ヲ用非テ調節シ得ル者ハ此ノ限ニ在ラス

一、 片耳若ハ兩耳ノ聾又ハ低聲ヲ聴取シ難キ者

第十三條 入學試験ノ科目ハ左ノ如シ

- 一、 養蠶講習科

本科

- 一、算術代數學(二次方程式迄)及平面幾何學
 - 二、動物學
 - 三、植物學
 - 四、物理學
 - 五、無機化學
 - 六、作文(假名交リ記事論說文)
 - 七、養蠶法
- 別科

- 一、作文(假名交リ記事文)
- 二、養蠶法

本科(男生)

- 一、算術代數學(二次方程式迄)及平面幾何學
- 二、物理學
- 三、無機化學
- 四、作文(假名交リ記事論說文)

五、製絲法

本科(女生)

- 一、算術
 - 二、理科
 - 三、作文(假名交リ記事文若ハ往復文)
 - 四、製絲法
- 別科
- 一、作文(往復文)

第十四條 各講習科本科並製絲講習科別科志願者ハ毎年七月十日迄ニ養蠶講習科別科志願者ハ毎年十一月十日迄ニ左ノ書式ニ據リ願書履歷書並身體検査證各一通ヲ認メ地方廳ヲ經由シテ本所ニ差出スベシ

入學願書 (用紙美濃白紙)

某儀蠶業講習所 養蠶講習科本科或ハ別科 講習生志願ニ付御試験ノ上入學許可相成度別紙履歷書及身體検査證相添ニ此段相願候也

年 月 日

何

某印

東京蠶業講習所長某殿

履歷書 (用紙美濃白紙)

本籍地
寄留地
族籍

何

何年何月生

一、何年何月ヨリ何年何月迄何學校ニ於テ若ハ何某ニ就キ何學修業

一、何年何月何學校ニ於テ第何年ノ課程修業或ハ全科卒業

一、何年何月ヨリ何年何月迄何所ニ於テ(養蠶法)ヲ習得シ或ハ何年何月ヨリ何年

何月迄何所ニ於テ(製絲)實業ニ従事

一、何年何月何々ニ付賞又ハ罰

右之通相違無之候也

年月日

右

何

某

身體検査證

本籍地
寄留地
族籍

何

何年何月生

右精細検査候處蠶業講習所入學志願者身體検査規定ニ合格セル者ト診斷候也

住所

年月日

醫師

何

某

第十五條 志願者入學許可ヲ得タルトキハ左ノ書式ニ據リ在學證書一通ヲ認メ保證人ヨリ本所ニ差出スヘシ

在學證書 (用紙美濃白紙)

印紙

本籍地
族籍

何

何年何月生

今般右ノ者入學許可相成候ニ付テハ同人在學中ニ係ル一切ノ事件ハ私ニ於テ引受可申此段保證候也

但住所移轉或ハ印章相改候節ハ速ニ届出可申候也

年月日

住所
族籍

保證人

何

某

東京蠶業講習所長某殿

第十六條 入學ノ許可ヲ得タル者ト雖本所ハ更ニ第十二條ノ身體検査ヲ行ヒ不合格ト認ムルトキハ入學許可ヲ取消スヘシ

第十七條 保證人ハ^{東京府}京都市府内在住ノ公民タルヘシ但本所ニ於テ適當ト認メタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 保證人旅行セントスルトキハ豫メ相當ノ代理者ヲ立テ届出ツヘシ

第十九條 保證人死亡若ハ他府縣ニ轉住スルトキハ直ニ他人ヲ以テ之ニ換ヘ更ニ在學證書ヲ差出スヘシ

第二十條 本所ニ於テ保證人又ハ其ノ代理者ヲ不適當ト認ムルトキハ之ヲ換ヘシムルモノトス

第五章 進級及卒業

第二十一條 試験ハ之ヲ分テ定期及臨時ノ二トス定期試験ハ各期ノ終ニ於テ之ヲ行ヒ臨時試験ハ主務官ノ見込ニヨリ臨時之ヲ行フ但定期試験ノ期日ハ時宜ニヨリ之ヲ變更スルコトアルヘシ

第二十二條 試験點數ハ各課目一百點ヲ以テ滿點トス臨時試験ノ點數ハ定時試験ノ點數ニ通算スルモノトス

第二十三條 試験ニ缺席シタル課目ニハ零點ヲ附ス

第二十四條 各講習科本科及製絲講習科別科ニ在リテハ第三期ノ終ニ於テ養蠶講習科別科ニ在リテハ第二期ノ終ニ於テ各期試験ノ點數ヲ通算シ左ノ規定ニ依リ及落ヲ定ム

總平均點數六十點以上	及第
總平均點數六十點未滿	落第
二課目以上五十點未滿	落第
一課目以上四十點未滿	落第

第二十五條 試験ニ及第セサル者ハ何等ノ事故アルニ拘ハラズ再試験ヲ受クルコトヲ得ス

第二十六條 病氣其ノ他已ムヲ得サル事故ニ由リ届出ノ上缺席シタル者ハ願ニヨリ特ニ試験ヲ行フコトアルヘシ

第二十七條 各講習科本科ニ在リテハ第一年間ニ於ケル試験ニ及第セル者ヲ進級セシメ第二年間ニ於ケル試験ニ及第セル者ヲ卒業セシム卒業ノ成績ハ二箇年間ノ試験點數ヲ通算シテ之ヲ定ム

各講習科別科ニ在リテハ講習期間ニ於ケル試験ニ及第セル者ヲ卒業セシム

第六章 賞罰及退學

第二十八條 在學中學術優等品行方正ニシテ他ノ模範タルヘキ者ニハ卒業ノ際賞品ヲ授與ス

第二十九條 講習生ニシテ諸規則及心得等ニ違反シ若ハ怠惰不品行ナルトキハ其ノ情狀ニヨリ左ノ懲戒ニ處ス

- 一、 譴責
- 二、 罰點
- 三、 退學

第三十條 左ノ各項ノ一ニ該當スル者ハ退學ヲ命ス

- 一、 缺課多キ者
- 二、 成業ノ見込ナキ者
- 三、 同級ニ於テ二回落第シタル者

第七章 寄宿

第三十一條 講習生ハ總テ所内ニ寄宿スルモノトス但本所ノ都合ニヨリ通學ヲ命スルコトアルヘシ

第三十二條 外出時限ハ左ノ如シ但時宜ニヨリ伸縮スルコトアルヘシ
男生

一、 平日 修業後ヨリ午後八時迄

一、 休日 午前七時ヨリ午後十時迄

女生

一、 休日 午前七時ヨリ午後五時迄

第三十三條 消燈時刻ハ左ノ如シ但時宜ニヨリ變更スルコトアルヘシ

一、 平日 午後十時

一、 休日 午後十一時

第三十四條 外出中疾病又ハ事故アリテ外泊シタルトキハ翌日直ニ其ノ事故ヲ詳記シ保證人連署ヲ以テ届出ツヘシ但疾病ノトキハ醫師ノ診斷書ヲ添附スヘシ

第八章 雜則

第三十五條 各講習科本科各級及別科ニ級長各一名ヲ置キ上席者ヲ以テ之ニ充ツ級長事故アルトキハ主務官ニ於テ代理者ヲ命ス

第三十六條 級長ハ主務官ノ命令ヲ傳達シ又ハ其ノ級ノ意見ヲ上陳スルモノトス

附則

第三十七條 本規程中製絲講習科ニ關スル規定ハ當分ノ内京都蠶業講習所ニハ之ヲ施行セス

蠶業講習所研究科規程

- 第一條 研究科ハ蠶業講習所卒業生(元農務局蠶業試驗場卒業生ヲ含ム)ニシテ既修ノ學科ニ就キ更ニ研究セントスル者ノ爲ニ之ヲ設ク
- 第二條 研究生ノ定員ハ各講習科十名トス
- 第三條 研究ノ期限ハ三箇月以上一箇年以内トス但主務官ノ見込ニヨリ伸縮セシムルコトアルヘシ
- 第四條 研究生ヲラント欲スル者ハ研究ノ事項及期限ヲ明記シ履歷書ヲ添附シテ願出ツヘシ所長ハ詮議ノ上之ヲ許否ス
- 第五條 研究生ノ研究ニ要スル費用ハ器具藥品其ノ他所長ニ於テ指定シタルモノヲ除ク外總テ自辨トス
- 第六條 研究生ニシテ本所ノ物品ヲ毀損シ若ハ紛失シタルトキハ之ヲ辨償セシム
- 第七條 研究生ハ研究セシ事蹟ニ就キ報告書ヲ編成シ滿期後十日以内ニ之ヲ所長ニ差出スヘシ
- 第八條 本所ハ前條ノ報告書ヲ満足ナリト認ムルトキハ證明書ヲ交付ス
- 第九條 研究生ニシテ成業ノ見込ナキ者ハ之ヲ除名ス可シ
- 第十條 研究生ニシテ中途退學シタル者及除名セラレタル者ハ再ヒ研究生タルコト

ヲ得ス

蠶業講習所講習生心得

- 第一條 講習生ハ總テ本所ノ規程及主務官ノ指揮ニ從ヒ其ノ命令ヲ遵守スヘシ
- 第二條 常ニ禮節ヲ重シ友誼ヲ厚シ荷モ本所ノ體面ヲ汚スカ如キ行爲アルヘカラス
- 第三條 衣服身體ハ清潔ヲ旨トシ深ク衛生ニ注意スヘシ
- 第四條 各級ヨリ一名ノ衛生委員ヲ互選シ衛生上注意ノ任ニ當ラシムヘシ
- 第五條 常ニ火ノ元ヲ慎ミ危險ナキ様注意スヘシ
- 第六條 火災其ノ他非常ノ事變アル場合ニハ總テ主務官ノ指揮ニ從フヘシ
- 第七條 已ヲ得サル事故ニヨリ制服制帽ヲ着用シ難キトキハ其ノ旨ヲ願出テ許可ヲ受クヘシ
- 第八條 已ヲ得サル事故アリテ通學セントスル者ハ其理由ヲ詳記シ保證人連署ヲ以テ願出テ許可ヲ受クヘシ
但疾病ノトキハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ
- 第九條 女生ハ外出セントスルトキ又ハ歸所シタルトキハ外出點檢簿ヲ主務官ニ差出シ點檢ヲ受クヘシ
- 第十條 外出時限ニ遅レテ歸舍シタルトキハ其ノ事故ヲ詳記シテ直ニ届出ツヘシ

- 第十一條 在舍點檢ノ際ニハ各自所定ノ室前ニ整列シテ舍監ノ點呼ニ應スヘシ
點檢ハ外出時限ノ前後隨時之ヲ行フモノトス
- 第十二條 教場ニ於テ喫煙又ハ喧騒粗暴等ノ舉動アルヘカラス
- 第十三條 何等ノ目的ニ依ルモ共同缺課シ又ハ主務官ノ許可ナクシテ會議スルコト
ヲ得ス
- 第十四條 玩具樂器小説稗史劍銃火藥劇藥其他危險ノ物品ヲ所持スヘカラス
- 第十五條 上達文書ニハ總テ級名ヲ肩書シ記名捺印ノ上所長ニ宛テ差出スヘシ
- 第十六條 告示ハ其ノ之ヲ揭示シタル日ヨリ一般ニ了知シタルモノト認ムルニヨリ
常ニ注意スヘシ
- 第十七條 缺課シタルトキハ當日中ニ其ノ事故ヲ詳記シテ届出ツヘシ
二日以上缺課セントスルトキハ豫メ其ノ事故ヲ詳記シ(疾病ノトキハ醫師ノ診斷書
添付)届出テ許可ヲ受クヘシ
- 第十八條 本所ノ物品ヲ毀損シ若ハ紛失シタルトキハ之ヲ辨償スヘシ但共同使用ノ
物品ニアリテハ連帶シテ辨償スヘシ
- 第十九條 來訪者アルトキハ所定ノ應接所ニ於テ面會シ猥リニ教場及寄宿室内ニ誘
フヘカラス但女生ハ豫メ舍監ノ許可ヲ受クヘシ

- 第二十條 寄宿舎ニ於テハ常ニ靜肅ヲ旨トシ猥リニ他室ニ出入スヘカラス
- 第二十一條 衣服寢具其ノ他ノ物品ハ各自之ヲ整理シ散亂セサル様注意スヘシ

蠶病消毒法講習規程

蠶病消毒法講習規程 明治三十四年 二月十八日

- 第一條 蠶病消毒法講習ハ毎年一回東京京都兩蠶業講習所ニ之ヲ開ク
- 第二條 講習生ハ地方ニアリテ蠶業獎勵ノ局ニ當リ或ハ蠶業ニ關係シ經驗ヲ有スル
モノニシテ地方長官ノ選定シタル者トス
- 第三條 講習生ノ定員ハ各所五十名以内トシ府縣割當ハ東京京都蠶業講習所長之ヲ
定ム
- 第四條 講習期限ハ概二十日間トシ八九月中ニ於テ之ヲ開ク
- 第五條 消毒ニ要スル物品ハ之ヲ貸與スヘシト雖モ其他ハ講習生ノ自辨トス
- 第六條 講習課程左ノ如シ
 - 一 蠶病論大意
 - 一 微生物學大意
 - 一 消毒藥品論
 - 一 消毒法

一 消毒實習

第七條 始業ノ時日及其他講習ニ關スル事項ハ東京京都蠶業講習所長之ヲ定ムルモ
ノトス

明治三十七年六月廿一日印刷
明治三十七年六月廿五日發行

京都蠶業講習所

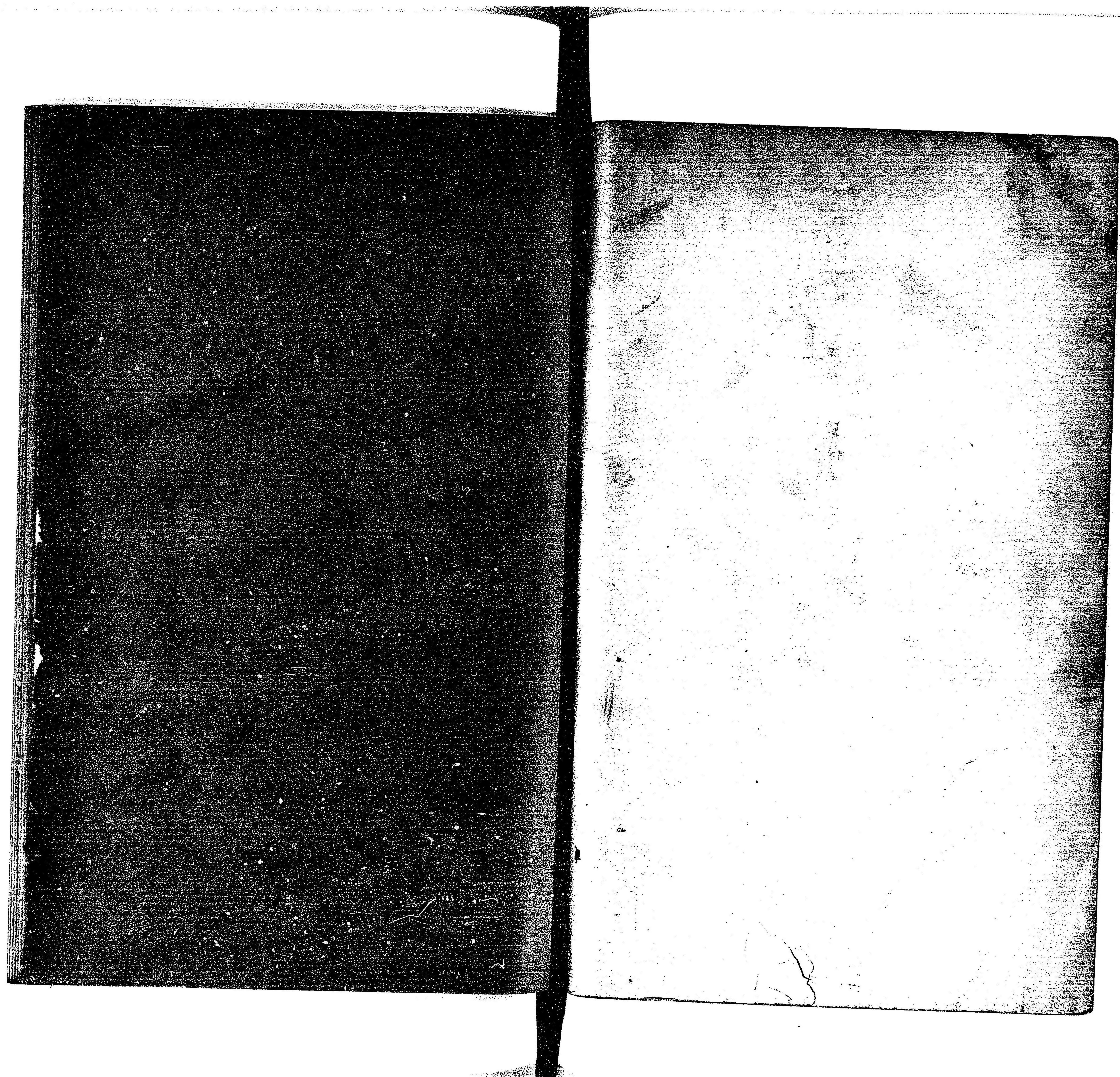
京都市上京區新橋木町通二條上ル角倉町

印刷者 曾我部了吉

京都市上京區三條通東洞院東入曇華院前之町

印刷所 合資商報會社

29.5
7



27/5
7

明治三十八年度事蹟報告

京都蠶業講習所

緒

言

本報ハ昨三十八年度ニ於ケル事蹟ノ概要ヲ輯録シタルモノナリ

明治三十九年七月

京都蠶業講習所

明治
39 9 14
内交

明治三十八年度事蹟報告

目次

沿革

第一章 講習

第一節 本科別科講習生

十七頁

第二節 研究生

二十三頁

第三節 留學生

二十四頁

第四節 講習生養蠶實習成績

全頁

第二章 試驗

第三章 調查

第一節 桑樹發芽及開葉狀況

四十一頁

第二節 桑芽發育ノ狀況

八十四頁

第三節 蠶種貯藏及催青

八十八頁

第四節 氣象

九十一頁

第四章 配布蠶種

第五章 出張

第六章 質問應答

第七章 鑑定

第八章 雜件

第一節 文書ノ往復

第二節 來觀人員

第三節 書籍刊行

九十七頁

全頁

全頁

第九章 土地及建物

第一節 敷地

九十八頁

第二節 建物

九十九頁

第十章 職員

附錄

本所ニ關スル法令規則

百五頁

明治三十八年度事蹟報告

沿革

明治七年内務省内藤新宿勸業寮出張所ニ於テ始メテ蠶業試験掛ヲ設ケ斯業ニ關スル諸般ノ試験ヲ行ヒタリシガ明治十二年五月勸業局試験場ノ廢止ト共ニ中絶セリ是ヨリ先キ蠶病中恐ルベキ微粒子病ハ西歐伊佛等ニ瀰蔓シ我國ノ蠶業界亦其慘禍ヲ被ラントスルノ兆アリ茲ニ於テカ明治十七年農商務省ハ蠶病試験場ヲ東京麹町區内山下町ニ假設シテ專ラ該病ニ係ル種々ノ試験ヲ行ヒ明治十九年豫防殄滅ノ第一着手トシテ蠶種検査規則ヲ發布セリ

蠶種検査規則公布セラレテ之レガ運用ヲ主トル技術者養成ノ必要アリ乃チ明治十九年地ヲ東京府北豊島郡西ヶ原ニトシテ名ヲ蠶業試験場ト改メ一方試験ノ方法ヲ擴張シテ蠶業全般ニ關スル諸項ニ亘リ一方多クノ傳習生ヲ募集シテ蠶種検査員ノ養成ニ勉メタリ爾來蠶業ノ進歩益々旺盛ニシテ各地該場ノ規畫ニ倣ヒ養蠶傳習所ヲ設クルモノ頗ル多ク斯業技術者ノ需用頓ニ増加セシカバ明治二十三年更ニ傳習ノ目的ヲ變更シテ稍其程度ヲ高メ地方養蠶傳習所教師若クハ同巡回教師トナルベキモノヲ養成セリ然ルニ明治二十八年衆議院議員ハ當時蠶業ノ進運ヲ促成利導センニハ唯一ノ蠶

業試験場ヲ以テ不足ナリトシ東京及京都ニ蠶業講習所ヲ設置スルノ建議案ヲ提出シ之レヲ可決セリ然リト雖モ當時恰モ日清戰役ノ後國事多端ニシテ遂ニ之レガ増設ヲ許サズ唯明治二十九年三月蠶業講習所官制ヲ發布セラレタルニヨリ蠶業試験場ヲ改メテ蠶業講習所ト稱シ傳習ノ方法ヲ革新シテ本科別科ヲ置キ試験ノ方法ヲ密ニシテ益因果ノ關係ヲ明カニシ更ニ調査ノ項目ヲ新設シテ斯業改善ニ資スル所アリシト雖モ蠶業ノ發達益々盛ニ到底此改革ヲ以テ足レリトセス實業大會等ノ開會アレバ毎ニ政府ニ建議シテ之レガ増設ヲ迫マリ國會議員中時々質問ヲ呈出シテ之レガ實行ヲ促ス等一般當業者ノ希望愈々切ナルモノアリ殊ニ年々入場ノ生徒ハ應募人員ノ半バニ及バス巡回講話ノ爲メ技術官ノ派遣ヲ請求スルモノ漸ク多キモ所員ノ不足ハ悉ク之レニ應ズルコト能ハザル等斯業獎勵上遺憾抄ナカラザリシヲ以テ明治三十一年政府ハ茲ニ増設ノ議ヲ定メテ經費ノ豫算ヲ編成シ時ノ議會ノ協賛ヲ經テ之レガ準備ニ着手シ事務漸ク進捗シテ明治三十二年三月勅令第八十九號ヲ以テ蠶業講習所官制ヲ改定セラレ次ア同年六月告示第六十一號ヲ以テ蠶業講習所名稱及位置ノ公布アリ乃チ同年八月ヨリ本所ノ業務ヲ開始セリ而シテ三十八年七月ニ至リ世ノ進運ニ伴ヒ本科講習生ノ學科程度ヲ高尚ニシ且修學年間ヲ長クセザルベカラザルノ必要ヲ認メタルニヨリ全入學試験ノ學科程度ヲ中學校卒業以上トナシ修學年限ヲ三ヶ年トナセリ其他

明治三十九年度東京蠶業講習所ニ於テハ養蠶部ノ別科生ヲ募集セザルコト、ナリシヲ以テ本所ニ於テハ全年度以後之レヲ全國ヨリ募集シ入學セシムルコト、ナセリ今開所以來施行シタル事蹟ノ概要ヲ年次ヲ逐フテ摘記スベシ

○明治三十二年度

一 講習

三十二年十一月十一日第一回本科講習生廿名ヲ入學セシメ全日ヨリ授業ヲ開始ス内一名退學セリ
三十三年三月一日第一回別科講習生四十八名ヲ入學セシメ全日ヨリ授業ヲ開始ス内二名退學セリ
本年度ニ於テ研究生一名入所研究ヲ了ス

二 試験及調査

本年度内ニ於テ着手セシ試験及調査ノ項目ハ總計九件トス專ラ桑樹及蠶種ニ關スルモノナリ

三 蠶種配付

本年度内ニ於テ蠶種ノ配付ヲ出願セシモノニ府十五縣ニ亘リ其數九十八名ニ達ス

四 質問應答

本年度内ニ於ケル蠶糸業ニ關スル質問ノ數ハ七十五件ニシテ悉ク之ニ應答セリ

五 出張巡回

本年度ニ於テ蠶絲業ニ關スル講話等ノ爲メ所員ノ派遣ヲ請求シ來リシニ依リ其需メニ應ジ派遣セシ府縣及度數ハ京都八愛知二三重四滋賀五岐阜一ナリトス
右ノ外土地買収及桑樹栽培及蠶糸業ノ實況調査ノ爲メ特ニ所員ノ出張セシ府縣及度數ハ京都二三重兵庫愛知奈良岐阜滋賀岡山廣島和歌山愛媛及高知各一ナリトス

六 來觀人員

本年度中本所來觀人員ノ總數ハ百五十一人ナリ

七 土地買収

本所ハ本年度ノ新設ニシテ即京都府下ニ於テ敷地ヲ選定シ葛野郡衣笠及花園ノ兩村入會民有地一萬五千七百五十三坪六合六勺ヲ買収セリ

八 建物建築

前項ノ如ク敷地買収ノ後直ニ事務室教室寄宿舍外三棟ヲ建設シ尋テ試験及別科ノ兩養蠶室並ニ簡易養蠶室外五棟ヲ建築セリ

九 書籍刊行

本所設置始末及本所ニ關スル法令規則事務要領等ヲ編纂シ京都蠶業講習所一覽ト題

シ之レヲ印刷ニ付シテ營業者ニ配布セリ

○明治三十三年度

一 講習

第一回本科講習生中三十三年八月第一學年ノ試験ニ及第シタルモノ十五名アリ十月一日ヨリ之レニ第二學年ノ授業ヲ開始ス而シテ中途退學者一名アリ
三十三年十月一日第二回本科講習生廿名ヲ入學セシメ前級落第者四名ト共ニ全日ヨリ第一學年ノ授業ヲ開始セリ
三十三年三月一日第二回別科講習生四十八名ヲ入學セシメ全日ヨリ授業ヲ開始ス
本年度中ニ於テ研究生ノ入學ヲ許可シタルモノ四名アリ内三名研究ヲ了ス
三十三年八月一月第一回別科講習生中制規ノ試験ニ及第シタルモノ四十名ニ卒業證書ヲ授與セリ

二 試験及調査

本年度内ニ於テ施行セシ試験及調査ノ項目ハ總計四十七件トス桑樹蠶種蠶兒成繭製絲ノ全般ニ涉レリ

三 蠶種配付

本年度ニ於テ配付シタル蠶種ハ小石丸二萬九千四百六十三蛾分青熟一萬二千〇六十

蛾分角又七千九百五十蛾分ニシテ其人員百六十七名ナリ

四 質問應答

本年度ニ於テ管内各府縣當業者ノ蠶絲業ニ關スル質問ニ應答シタル數ハ百四十五件ナリ

五 出張巡回

本年度ニ於テ蠶絲業ニ關スル講話等ノ爲メ其需メニ應ジテ所員ヲ派遣セシ府縣及度數ハ京都八滋賀七三重六福井五岐阜三愛知及鳥取各二大阪長野島根徳島及愛媛各一ナリ

右ノ外桑樹栽培及蠶絲業ノ實況調査教務又ハ事務打合實業又ハ蠶絲業大會農談會及共進會等臨席ノ爲メ特ニ所員ノ出張セシ府縣及度數ハ東京六富山四熊本二京都大阪長崎愛知滋賀岐阜石川島根佐賀各一ナリトス

六 來觀人員

本年度本所來觀人員ノ總數ハ一千九十二人ニシテ毎月平均九十一人ナリ

七 土地買收

本所用地ハ前年度ニ於テ買收セシガ桑園ノ部狹隘ヲ感ズルニ依リ本年度ニ於テ更ニ一千四百三十一坪(現在桑園ノ接壤地)ヲ買收セリ

八 建物建築

本年度ニ於テハ製絲室汽罐室化學實驗室傳習及試験兩養蠶室寄宿舎等九棟ヲ建築セリ

九 書籍刊行

本年度ニ於テ舉行セル蠶事試験ノ成績ト傳習生教養ノ事項トヲ併セ編纂シ蠶事報告第一號ト題シ之レヲ印刷ニ付シテ官衙公署當業者ニ配付セリ

○明治三十四年度

一 講習

第一回本科講習生中三十四年七月規定ノ試験ヲ經テ卒業セルモノ十四名ニ卒業證書ヲ授與セリ

第二回本科講習生中三十四年八月規定ノ試験ニ及第シタルモノ十六名之レニ第二學年ノ授業ヲ開始セリ

第三回本科講習生廿五名ハ三十四年八月ヲ以テ入學ス之レニ前級落第生二名ヲ併セ十月一日ヨリ第一學年ノ授業ヲ開始セリ

第二回別科講習生中三十四年七月規定ノ試験ヲ經テ卒業セルモノ四十五名ニ卒業證書ヲ授與セリ

第三回別科講習生四十八名ハ三十五年三月一日ヲ以テ入所ス即チ全日ヨリ授業ヲ開始セリ

本年度内ニ於テ研究入學ヲ許可シタルモノハ八名ニシテ全研究ヲ了シタルモノ八名トス而シテ研究證明書ヲ交付シタルモノ三名アリ

三十四年九月五日ヨリ全二十五日ニ至ル三週間蠶病消毒法ノ講習ヲナス講習生ハ總員四十名ニシテ管轄内各府縣ヨリ募集セリ

二 試験及調査

本年度内ニ於テ施行シタル試験及調査ハ總計五十一項ニシテ蠶糸業全般ニ涉レリ

三 蠶種配付

本年度ニ於テ配付シタル蠶種ハ小石丸一万二千六百八十二蛾分青熟七千三百八十蛾分角又一千四百六十五蛾分計二万一千五百二十七蛾分ニシテ此人員六十名ナリ

四 質問應答

本年度ニ於テ蠶糸業ニ關スル質問ニ應答シタル數ハ百十七件ナリ

五 出張巡回

本年度ニ於テ蠶糸業ニ關スル講話ノ爲メ其請求ニ應ジテ所員ヲ派遣セシ府縣及總數ハ滋賀九京都六三重五奈良四兵庫三愛知岐阜福井島根山口愛知徳島各二島根岡山和

歌山香川高知熊本宮崎各一ナリトス

右ノ外蠶糸業ノ實況調査又ハ講話蠶種貯藏風穴調査蠶業講話會實業大會共進會等ハ臨席教務又ハ事務打合ノ爲メ特ニ所員ノ出張セシ府縣及度數ハ東京八京都七愛知三兵庫岐阜及高知各二三重静岡山梨滋賀福井富山和歌山愛媛福岡及鹿島各一ナリトス

六 來觀人員

本年度中本所來觀人員ノ總數ハ二千六百五十三人ニシテ即毎月平均二百廿一人ナリ

七 建物増築

本年度ニ於テ舎監宿直室及囑託醫診察室ノ設備ヲ要シ又薪炭室狹隘ヲ告グルニ依リ合計十七坪五合ノ増築ヲナセリ

八 書籍刊行

昨三十三年度ニ於テ舉行セル製糸ニ關係スル試験成績ヲ編纂シ蠶事報告第一號追刊トシ又本年度ニ於テ施行セル試験調査及傳習等ノ事項ヲ併セテ編纂シ蠶事報告第二號ト題シテ官衙公署當業者ニ配布セリ

○明治三十五年度

一 講習

第二回本科講習生中三十五年七月規定ノ試験ヲ經テ卒業セルモノ十六名ニ卒業證書

ヲ授與セリ

第三回本科講習生中三十五年八月規定ノ試験ニ及第シタルモノ十六名之レニ第二學年ノ學科ヲ授ク

第四回本科講習生二十名ハ三十五年八月ヲ以テ入學ス之レニ前級落第生四名ヲ合セ十月一日ヨリ第一學年ノ授業ヲ開始セリ

第三回別科講習生中三十五年七月規定ノ試験ニ及第セルモノ四十四名ニ卒業證書ヲ授與セリ

第四回別科講習生四十八名ハ三十六年二月一日ヲ以テ入所ス即チ全日ヨリ授業ヲ開始セリ

本年度内ニ於テ研究入學ヲ許可シタルモノ六名ニシテ全研究ヲ了シタルモノ三名トス而シテ研究證明書ヲ交付シタルモノ四名アリ

三十五年九月五日乃至全廿五日ノ三週間蠶病消毒法ノ講習ヲナス講習生ハ總員四十名ナリシモ事故ノ爲メ中途ニ名ヲ欠ケリ

二 試験及調査

本年度内ニ於テ施行シタル試験及調査ハ總計三十六項ニシテ蠶糸業全体ニ涉レリ

三 蠶種配付

本年度ニ於テ配布シタル蠶種ハ小石丸一萬一千三百四十蛾分青熟三千三百三十二蛾分角又一千四百五十六蛾分計一萬六千百廿八蛾分ニシテ此人員六十二名ナリ

四 質問應答

本年度ニ於テ蠶糸業ニ關スル質問ニ應答シタル數ハ百六十三件ナリ

五 出張巡回

本年度ニ於テ蠶糸業ニ關スル講話等ノ爲メ其請求ニ應ジ所員ヲ派遣セシ府縣及度數ハ岐阜六兵庫五京都滋賀及福井各四三重香川及愛媛各三山口二奈良滋賀徳島及熊本各一ナリトス

六 來觀人員

本年度中本所來觀人ノ總數ハ三千八十四人ニシテ即每月平均二百五十七人ナリ

七 書籍刊行

昨三十四年度ニ於ケル蠶事試験ノ成績中蠶事報告第二號ノ刊行當時未ダ完了セザリシモノト全年中施行セル蠶病消毒法講習ノ事蹟トヲ併セ編纂シ蠶事報告第二號追刊トシ又本年度ニ於テ施行セル試験調査及講習等ノ事項ヲ併セ編纂シ蠶事報告第三號

ト題之レヲ印刷ニ付シテ官衙公署當業者ニ配布セリ

○明治三十六年度

一 講習

第三回本科講習生中三十六年七月規定ノ試験ヲ經テ卒業セルモノ十八名ニ卒業證書ヲ授與セリ

第四回本科講習生中三十六年八月規定ノ試験ニ及第シタルモノ十六名之レニ第二學年ノ學科ヲ授ク

第五回本科講習生二十五名ハ三十六年八月ヲ以テ入學ス之レニ前級落第生五名ヲ合セ十月一日ヨリ第一學年ノ授業ヲ開始セリ

第四回別科講習生中三十六年七月規定ノ試験ニ及第セルモノ四十五名ニ卒業證書ヲ授與セリ

第五回別科講習生四十九名ハ三十七年二月一日ヲ以テ入所ス即チ全日ヨリ授業ヲ開始セリ

本年度内ニ於テ研究入學ヲ許可シタルモノ十一名ニシテ全研究ヲ了シタルモノ七名ナリ而シテ研究證明書ヲ交付シタルモノ四名アリ

三十六年九月清國人一名ニ入學ヲ許可セリ

三十六年九月蠶病消毒法ノ講習ヲナス講習生ハ總員四十八名ナリ

二 試験及調査

本年度内ニ於テ施行シタル試験及調査ハ總計四十項ニシテ蠶糸業全体ニ涉レリ

三 蠶種配付

本年度ニ於テ配付シタル蠶種ハ小石丸一万九千六百五十六蛾分青熟一万七千二百七十八蛾分角又一千六百二十四蛾分計三万八千五百五十八蛾分ニシテ此人員百二十七名ナリ

四 質問應答

本年度ニ於テ蠶糸業ニ關スル質問ニ應答シタル數ハ千〇四十五件ナリ

五 鑑定

本年度ニ於テ蠶糸業ニ關スル器械器具其他ニ對シ鑑定ヲ與ヘタルモノ八件アリ

六 出張巡回

本年度ニ於テ講話講習又ハ調査等ノ爲メ所員出張ノ件數ハ總計九十四件トス

七 來觀人員

本年度中本所來觀人ノ總數ハ三千百九十二人ニシテ即チ毎月平均二百六十六人ノ割合ナリ

八 書籍刊行

本年度ニ於ケル夏秋蠶ニ關スル試験ノ成績ヲ編纂シ蠶事報告第四號ト題シ之ヲ印刷ニ付シテ官衙公署營業者ニ配付セリ

○明治三十七年度

一 講習

第四回本科講習生中三十七年七月規定ノ試験ヲ經テ卒業セルモノ十五名ニ卒業證書ヲ授與セリ

第五回本科講習生中三十七年八月規定ノ試験ニ及第シタルモノ十八名及前學年休業者一名計十九名ニ第二學年ノ學科ヲ授ク

第六回本科講習生二十三名ハ三十七年八月ヲ以テ入學ス之レニ前學年落第セルモノ四名及軍事召集ニ應ジテ休學中ノモノ三名ヲ合セ十月一日ヨリ授業ヲ開始セリ

第五回別科講習生中規定ノ試験ニ及第セシモノ四十名ニ卒業證書ヲ授與セリ

第六回別科講習生四十八名ハ三十八年二月一日ヲ以テ入所ス之レニ第五回別科講習生ニシテ軍事召集ニ應ジタルモノ、再ビ入學ヲ志願セシモノ二名ヲ合セ全入所ノ日ヨリ授業ヲ開始セリ

本年度内ニ於テ研究入學ヲ許可シタルモノ六名ニシテ研究證明書ヲ交附シタルモノ

十一名アリ

明治三十七年六月清國人一名全三十八年三月全國人一名ニ入學ヲ許可セリ

二 試験及調査

本年度ニ於テ施行セル試験及調査ハ總計三十五項ニシテ蠶糸業全般ニ涉レリ

三 蠶種配付

本年度ニ於テ配付シタル蠶種ハ小石丸二萬四千二百七十六蛾分青熟七千六百七十二蛾角又百四十蛾ニシテ此人員八十一名ナリ

四 質問應答

本年度ニ於テ蠶業系ニ關スル質問ニ應答シタル數ハ六百五件ナリ

五 鑑定

本年度ニ於テ蠶業系ニ關スル器具其他ニ對シ鑑定ヲ與ヘタルモノ十件アリ

六 出張巡回

本年度ニ於テ講話講習又ハ調査等ノ爲メ所員出張ノ件數ハ總計七十件トス

七 來觀人員

本年度中本所來觀人員ハ二千九百八十人ニシテ即チ毎月平均二百四十九人ノ割合ナリ

八 書籍刊行

本年度ニ於テ刊行シ官衙公署當業者ニ配付セシ書籍ハ左ノ如シ

- 一 蠶事報告第五號
- 一 全 第六號
- 一 全 第七號
- 一 全 第八號
- 一 明治三十六年度事蹟報告

以上ハ本所開始以來ノ事蹟ノ概要トス而シテ昨三十八年度ニ於ケル事蹟ハ下條ニ詳カナリ

第一章 講習

第一節 本科別科講習生

本科第五回講習生

明治三十六年十月ヲ以テ入學ヲ許可セシモノ二十五名他ニ前級落第生及休學生ヲ併セ合計三十名ノ授業ヲ開始ス内明治三十七年七月迄ニ病氣其他ノ事故ニヨリ退學セルモノ三名退學ヲ命ゼシモノ二名軍事召集ニ應ゼシモノ三名第一學年試験ニ落第セシモノ四名合計十二名ヲ除キ第二學年ニ進級セルモノ十八名之レニ前學年休學者一名ヲ加ヘ十九名爾後病氣ノ爲メ休學ノ不得已ニ出タルモノ二名軍事應召中ノモノ一名合計三名ヲ除ク外規定ノ學科ヲ授ケ試験ノ結果三十八年七月卒業生十六名ヲ出セリ

本科第六回講習生

明治三十七年十月ヲ以テ入學ヲ許可セシモノ二十三名他ニ前級落第生四名及軍事召集ニ應シテ休學中ノモノ三名合計三十名ニシテ十月一日ヨリ授業ヲ開始シ内明治三十八年七月迄ニ病氣其他ノ事故ニヨリ退學セルモノ八名死亡セルモノ一名軍事應召其他ノ事故ニヨリ休學中規則改正ノ結果學籍喪失ニ歸セシモノ七名ヲ除キ第二學年

ニ進級セルモノ十四名之レニ前學年休學者三名ヲ加ヘ現員十七名ナリ
本科第七回講習生

明治三十八年八月募集試験ニ合格セルモノ二十名ニシテ改正規則ニ據リ十月一日ヨ
リ授業ヲ開始セリ爾後一名ノ退學者ヲ生シ之レガ補欠トシテ入學ヲ許可シタルモノ
一名アリ

別科第六回講習生

明治三十七年十二月入學試験合格者ニシテ明治三十八年二月一日ヨリ入學ヲ許可セ
シモノ四十八名及第五回講習生ニシテ軍事召集ニ應ゼシモノ除隊後再ビ入學ヲ志願
セシモノ二名ヲ併セ合計五十名内入學取消出願者及退學者六名軍事應召者四名ヲ除
キ成規ノ試験ノ結果明治三十八年七月卒業者三十九名ヲ出セリ

第七回別科講習生

明治三十八年十二月第七回別科講習生ノ入學試験ニ合格セルモノ五十名ニシテ明治
三十九年二月一日ヨリ改正規則ニ據リ授業ヲ開始セリ爾後入學取消出願者一名アリ
卒業証書授與式

明治三十八年七月三十一日第五回本科講習生第六回別科講習生卒業証書授與式ヲ舉
行セリ其次第ハ當日午前九時農商務大臣代理酒匂農務局長大森京都府知事代理中山

事務官中澤高等工藝學校長其他朝野ノ來賓及職員一同着席杉原所長ヨリ本科講習生
十六名別科講習生三十九名ノ各總代ニ卒業証書ヲ授與シ次テ優等生本科一名別科二
名ニ賞品ヲ授與シ畢テ所長ノ式辭大臣ノ告辭代讀アリ次テ來賓及在學生總代ノ祝辭
朗讀アリ本科卒業生總代神岡逸夫別科卒業生總代竹中藤治之レニ答ヘ式全ク終レリ
卒業生ノ氏名ハ左ノ如シ

第五回本科卒業生 (十六名)

廣 島 縣
岐 阜 縣
京 都 府
岐 阜 縣
島 根 縣
德 島 縣
山 口 縣
岐 阜 縣
滋 賀 縣
京 都 府

神 岡 逸 夫
佐 々 木 鈴 一
和 田 傳 太 郎
柳 瀬 榮 壽
赤 沼 龜 夫
松 本 良 市
志 賀 惟 助
河 野 壬 三
山 田 幾 治
大 槻 眞 之 助

滋賀縣	島根縣	熊本縣	島根縣	岡山縣	宮崎縣	岡山縣	德島縣	廣島縣	京都府	島根縣	愛知縣	京都府	德島縣	愛知縣
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

第六回別科卒業生 (三十九名)

柴原九造	小林新造	永田靖人	橋本文三郎	雲岡豐治	猪野兵衛	竹中藤治	横田純太郎	藤田準一	足立梅藏	宮廻卓三	林勳平	四方三治郎	工藤利雄	藤野得太郎
------	------	------	-------	------	------	------	-------	------	------	------	-----	-------	------	-------

島取縣	愛知縣	島根縣	高根縣	岐阜縣	岐阜縣	愛知縣	德島縣	宮崎縣	福井縣	岡山縣	鳥取縣	岐阜縣	島根縣	京都府	愛知縣
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

松本勳	山田孫吉	原田友太	沖田邦一	玉置金彌	河田元次郎	奥村儀兵衛	住友三四郎	山下盛武	森田伸治	中谷雄平	永石藤十郎	中村光太郎	生和虎之助	新井傳吉	水野常二郎
-----	------	------	------	------	-------	-------	-------	------	------	------	-------	-------	-------	------	-------

兵庫縣	西 增 太郎
熊本縣	一 瀬 武 俊
高知縣	近 森 武 城
岐阜縣	中 山 與 平
岐阜縣	大 山 萬 彌
長崎縣	安 江 松 右 衛 門
德島縣	松 浦 純 治
島根縣	中 村 牛 男
愛媛縣	中 村 熊 一 郎
福岡縣	井 上 弘 馬
宮崎縣	安 部 藤 蒼
愛媛縣	島 津 美 風
福岡縣	富 田 豐 七
本 科	神 岡 逸 夫

右ノ内優等生ハ左ノ如シ

別 科

竹 中 藤 治
横 田 純 太 郎

第二節 研究生

明治三十八年一月以降入學ヲ出願セシモノ六名ニシテ内許可セシモノ六名ナリ右ノ内研究着手前入學取消ヲ出願セシモノ二名アリ而シテ前年ヨリノ繼續者ニシテ三十八年一月以降研究ヲ結了セシモノ一名アリ今許可セシモノ、研究科目其他ヲ表示セハ左ノ如シ

出願年月日	研究科目	研究期間	府 縣	氏 名
三十八年一月十三日	蠶 体 解剖	全 三十八年一月十五日ヨリ四月十五日マデ	鹿 兒 島 縣	金 丸 榮 吉
全 二月六日	蠶 体 病理	全 二月七日ヨリ五月六日マデ	島 根 縣	梶 銀 之 助
全 五月三日	化學并ニ蠶体病理	全 十一月一日ヨリ三十九年五月廿一日マデ	鳥 取 縣	△石 賀 熊 男
全 十一月卅日	蠶 体 病理	全 三十八年十二月十日ヨリ三十九年六月九日マデ	長 崎 縣	△古 賀 治 四 郎
全 十一月卅日	製 糸	全 上	京 都 府	木 上 恒 藏
全 十一月卅日	蠶 体 病理	全 上	三 重 縣	加 藤 由 松

備 考 △印ハ入學取消ヲ出願セシモノナリ

尙三十八年一月以降研究證明書ヲ下付セシモノ左ノ三名ナリ

蠶体生理學

奈良縣

小森 幸次郎

繰 絲 法

山形縣

荒木 柳司

製糸實驗

京都府

奥田 部一

第三節 留學生

明治三十九年三月清國人吳達ノ入學ヲ許可シタリ

第四節 講習生養蠶實習成績

本科二年生養蠶成績

(一) 春 蠶

蠶種ハ本所製造ノ小石丸種ニシテ昨三十七年十二月五日ヨリ全月九日ニ至ル五日間ニ於テ洗滌シ本年一月五日蠶種貯藏器ニ納メ四月十七日ニ至リテ蓋ヲ開キ全十八日催青室ニ移シ五月五日ヲ以テ掃下シタルモノナリ講習生ノ總數ハ十八名ニシテ一名ニ對シ蠶量一匁五分ヲ配當シ以テ實習ニ從ハシメタリ但シ其内二名ハ中途事故ノ爲メ其業ヲ廢セリ

催 青

催青ハ四月十八日ニ始マリ五月五日ニ了ル此間ニ於ケル氣象ハ晴天九日曇天四日雨

天五日ニシテ室内温度ハ最高七十三度最低四十四度平均六十一度二分全湿度ハ最高九十四度最低五十二度平均七十二度八分ナリ

飼 育

掃立以來温度稍高カリシト桑葉軟カナリシトニヨリ飼育日數減縮シテ全齡約三十一日トナレリ殊ニ五齡中ニ於テ日數一日短縮セシヲ以テ給桑量ハ蠶量一匁ニ對シ約五匁ヲ減セリ今飼育中ニ於ケル温湿度并ニ蠶兒發育ノ狀況及收購量等ヲ表示スレバ左ノ如シ

各齡温湿度表

齡 別	室 内			室 外		
	最 高	最 低	平 均	最 高	最 低	平 均
第 一 齡	七五度	六三度	七〇、六度	七九度	四〇度	六三、四度
第 二 齡	七七	六四	七二、二	七七	四七	六一、一
第 三 齡	七五	六三	六八、七	八三	六九	七〇、六
第 四 齡	七七	六三	七〇、三	七八	五四	六七、八
第 五 齡	八〇	六二	七〇、四	九四	五九	七七、六
平 均	—	—	七〇、四	—	—	六八、一

各齡經過表

齡別	給桑回数		給桑總量	對蟻量一匁給桑量	
	給桑	回數		給桑	對蟻量一匁給桑量
第一齡	正五月五日	午五時	四日十六時	一日十三時	六日五時
第二齡	午五時	午五時	三日十一時	一日八時	四日十九時
第三齡	正五月十六日	午五時	四日	一日十七時	五日十七時
第四齡	午五時	午五時	五日	一日十八時	六日十八時
第五齡	午五時	午六時	六日廿二時	六日	六日廿二時
合計	午五時	午六時	廿四日一時	六日八時	三十日九時
齡別	給桑	回數	給桑總量	對蟻量一匁給桑量	
第一齡	三	八	六、〇七二	二五三、〇	
第二齡	二	五	一六、〇三二	六六八、〇	
第三齡	二	五	四四、一六〇	一、八四〇、〇	
第四齡	三	一	一七三、三〇四	七、二二一、〇	
第五齡	三	五	七五六、一六八	三一、五〇七、〇	

合計	一五四	九九五、七三六	四一、四八九、〇
----	-----	---------	----------

種別	收 繭 表		合計	對蟻量一匁收繭量
	上 繭	中 繭		
種別	上 繭	中 繭	合計	對蟻量一匁收繭量
容量	六一六、一、五	一四一、八	七二八、九、八	三〇七、九
重量	六一、六一、五	一、四一、八	七三、八、九八	三、〇七九

採種

右收繭ノ内ヨリ各自ニ上繭二千顆ヲ撰別セシメテ種繭用ニ供シ之レガ保護及採種ノ實習ヲナサシメ框製蠶種一万二千百十四蛾分ヲ得タリ

(二) 夏 蠶

蠶種ハ本所ノ製造ニ係ル以形ニシテ簡易蠶室ニ於テ對一人蟻量約一分五厘ニ付各自希望ノ試験飼育ヲナサシメ飼育技術ヲ練磨セシムルト同時ニ試験ノ何物タルヲ了解セシムルヲ以テ目的トセリ其試験項目ハ左ノ如シ

一 勞力節減試験

一 乾燥、濕潤及雨桑給與、絶食試験

一 餉食時期及上簇試驗
 一 蠶座廣狹試驗
 一 給桑量試驗
 一 高溫育試驗
 一 給桑不足試驗
 一 上簇時期試驗
 一 桑ノ經濟ニ關スル試驗
 一 桑葉硬軟試驗
 一 酸酵桑給與試驗
 一 溫度ノ劇變及剝桑法試驗
 一 生種ト黑種ノ比較試驗
 一 泥桑雨桑給與試驗
 一 停食時期試驗

右ノ如ク種々ノ試驗ヲサシメタルヲ以テ給桑量收購量及蠶兒ノ經過ハ皆區々ニシテ茲ニ記載シ難シ
 本科一年生養蠶成績

(一) 春 蠶

蠶種ハ本所製造ノ青熟種ニシテ洗滌ノ月日時藏催青ノ方法等ハ凡テ本科二年生ノモノニ全ク五月五日ヲ以テ掃立テ總員十八名内一名留學生ヲ含ムニ蠶量八分ヅ、サ分擔セシメタリ

今蠶兒發育ノ經過收購額ヲ表示スレバ左ノ如クシ

蠶兒各齡經過表

種 別	種 別	齡 中 日 數		室 內 平 均		給 桑 量	對 蠶 量 一 匁 收 購 額
		食 桑 中	絕 食 中	溫 度	濕 度		
第 一 齡	五月五日 午前七時半	廿四日 二時半	一日 十時	七〇・六 度	六二・八 度	四〇 匁	三九三・〇 匁
第 二 齡	五月十一日 午後八時	三十五日 五時	一日 八時	七二・三 度	六一・一 度	二六 匁	一〇五八四・〇 匁
第 三 齡	五月十六日 午後七時	三十一日 三時	一日 五時	七二・五 度	六一・〇 度	二四 匁	二九一七四・〇 匁
第 四 齡	五月廿二日 午後七時	廿四日 一時	二日 五時	七〇・〇 度	六七・〇 度	三〇 匁	一〇四一八四・〇 匁
第 五 齡	五月廿九日 午後二時	廿一日 六時	六日 廿時	七二・六 度	七八・六 度	三五 匁	四五〇一八七・〇 匁
合 計		廿四日 三時半	廿三日 六時	七二・二 度	六七・五 度	一五五 匁	五九八〇六二・〇 匁

容 量	三、八五六、〇	一、九七、一	一、一五、三	五、三六、二	四、七〇、四	三、二六、七
重 量	三、八五六、〇	一、九七、一	一、一五、三	五、三六、二	四、七〇、四	三、二六、七

採種

右收繭ノ内ヨリ各自ニ二百五十顆ヲ撰別セシメテ種繭用ニ供シ之レガ保護及採種ノ實習ヲナサシメテ框製蠶種六千七百九十五蛾分ヲ得タリ

(二) 夏 蠶

蠶種ハ本所ノ製造セル二化性以形種ニシテ六月廿二日午前十時一名ニ付卯八蛾分ツツヲ配當シ以テ飼育ニ從事セシメ第三齡飼食ニ至リ各自ノ蠶數ヲ調査シテ一名一千五百頭ツ、トシ蠶量一分八厘ヲ掃立テタルモノト見做シテ飼育セシメタリ飼育中ノ氣候ハ不順ニシテ特ニ近年稀ナル霖雨ニ際シ一、二、三齡中ハ曇天雨日打續キタルヲ以テ種々排濕ニ注意シタリ四齡第二日目即チ七月六日ニ至リ天氣快晴シ爾後溫度漸ク高ク乾燥甚シカリシヲ以テ或ハ撒水シテ温濕ヲ調和セリ氣候上ノ關係如此ナリシト雖モ蠶兒ハ敢テ障礙ヲ受クルコトナク發育速進シ遂ニ良好ノ結果ヲ得タリ今飼育中ニ於ケル氣象蠶兒ノ經過並ニ收繭量ヲ表示スレバ左ノ如シ

各齡經過表

種別	齡	飼食月日			齡中	日	合計	室內平均		給繭量	對繭量一 夕給繭量
		(收繭)	(催熟)	(終熟)				溫度	濕度		
第一齡	六月廿二日 午前十時	六月廿五日 午後六時	六月廿六日 午前十時	四日	一日	五日	七五、〇	八三、一	三七	六八、六	
第二齡	六月廿七日 午前十時	六月三十日 午前七時	六月三十日 午後三時	三日	二日	七日	七四、五	八三、七	二七	一三七、五	
第三齡	七月一日 午後五時	七月四日 午前七時	七月四日 午後三時	二日	一日	三日	七八、五	八二、〇	二六	三四八、〇	
第四齡	七月五日 午後三時	七月八日 午後四時	七月八日 午後八時	三日	七日	十日	七九、〇	七八、〇	二八	一、二六三、〇	
第五齡	七月十日 午前十二時	七月十四日 午後三時	七月十四日 午後十一時	四日	十一日	十五日	七三、〇	七七、〇	三五	四九一、四九	
合計				十七日	四日	二十二日	七、七、六	八一、〇	一五三	六、七三三、〇	
平均				二日	九日	七日				三七四、〇〇	

收繭表

種別	上繭		中繭		下繭		全功繭		合計	
	容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量
以形	七五三、〇	七二六、九	一四〇、〇	一四八、〇	〇	〇	七、〇	七九八、〇	八三八、〇	八二二、五〇

(三) 秋 蠶

蠶種ハ山梨縣産ノ一化性青熟中巢ニシテ七月三十日午前九時各自六蛾分宛ヲ收蟻セシメ(蟻量約二分第三齡ニ至リ各自一千頭宛トナシ其蟻量ヲ約一分二厘ト見做スコト

トナセリ
 飼育中稚蠶ノ際ハ晴天多カリシモ壯蠶ニ至リ雨天若シハ曇天多ク殊ニ各齡共眠期ニ於ケル天候不良ニシテ飼育困難ヲ感シタリト雖モ無事收繭ヲ見ルコトヲ得タリ今其經過及收繭等ヲ表示スレバ左ノ如シ

蠶兒各齡經過表

種別	上繭			中繭			下繭			全功繭				
	容量	重量	數量	容量	重量	數量	容量	重量	數量	容量	重量	數量		
第一齡	七月三十日	午前九時	八月十一日	午後十時	八月九日	午前九時	三十分	三十分	三十分	七月九日	八二二	三七	六七〇・五	二二三五
第二齡	八月三日	午前十時	八月八日	午後八時	八月六日	午前八時	三十分	三十分	三十分	七月十四日	八六一	三三	一一六七・五	四二二五
第三齡	八月七日	午前七時	八月九日	午後〇時	八月九日	午後四時	二時	二時	二時	七月十四日	八二五	三二	三二六二・五	一八二二五
第四齡	八月十日	午後九時	八月十三日	午後一時	八月十四日	午前六時	九時	一日	五時	七月十六日	八六〇	三三	一〇五二・五	五八四一七
第五齡	八月十五日	午後六時	八月十九日	午後五時	八月二十日	午前十一時	五時	四時	三時	七月十七日	八五一	四八	六二四〇・〇	三四、六六六・七
合計										平均	八四〇	一八一	七六一・五五	四二、九六六・九

收繭表

種別	容量	重量	數量
青熟中集	四六七八	四五一九	七三
			六七
			五三〇
			五八〇
			五二八〇
			五一六六
			二九三三
			二八七〇

別科生養蠶成績

(一) 春 蠶

蠶種ハ本所製造ノ一化性小石丸種ヲ用ニ総員四十二名ニ對シ一人ニ付蠶量六分宛ヲ配當シ以テ實習ニ從事セシメタリ而シテ三齡以後退學者一名ヲ生シタルヲ以テ其蠶兒ハ之レヲ廢棄セリ
 蠶種ノ催青ハ本科二年生ノモノト同一ナルヲ以テ之ヲ省畧ス
 四月下旬桑園霜害ニ罹リタルヲ以テ一時蠶種ノ催青ヲ緩メ其發生ヲ遅メ五月五日午前十一時ヲ以テ收蟻シ六月四日午後六時上簇ヲ了ヘタリ飼育中氣候甚ダ不順ニシテ寒暖常ナク且ツ晴天ノ日少ナクシテ不良ノ天候ナリシモ其經過頗ル良好ニシテ好果ヲ收ムルコトヲ得タリ今其經過及ヒ收繭等ヲ表示スレバ左ノ如シ

蠶兒各齡經過表

種別	飼食			催食			停食			給桑			
	月日	月日	月日	月日	月日	月日	時間	時間	時間	時間	回数	量	
第一齡	五月五日	午後三時	五月九日	午前九時	五月十日	午前十一時	四三時間	十一時間	六九時間	七〇・五	四〇	七〇六三・〇	二八〇三
第二齡	五月十一日	午後八時	五月十四日	午後六時	五月十五日	午前十一時	三十五時間	四一時間	四九時間	七一・六	二七	一六五六・〇	六五七四

種別	上		中		下		全功		合計	
	容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量
第三齡	五月十六日 午後三時	五月十九日 午後七時	五月二十日 午後三時	四日間	二日間	六日間	七〇・八	七二・五	二五	五一八五・〇
第四齡	五月廿二日 午後三時	五月廿六日 午後七時	五月廿七日 午前九時	四日間 十八時	二日間	六日間	七〇・八	七二・五	二九	一五四四七・八〇
第五齡	五月廿九日 午前十時	六月六日 午前十時	六月四日 午後六時	六日間 八時	二日間	六日間	七二・四	七九・五	三三	一五四四七・八〇
合計				十六時 二十三日	六時 十五日	七三時 間日	平均 七二・四	平均 七二・五	一五三	一〇六五九九九・〇
對總量一 次收購額										四二、三〇、五

收購表

種別	上		中		下		全功		合計	
	容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量
小石丸	七〇・二八 石合	六九・七〇 石合	四七・一八 石合	四三・四二 石合	一〇四・六 石合	一〇三・四 石合	九六・六一 石合	一〇〇・二二 石合	八五・四五 石合	八五・〇九 石合
對總量一 次收購額										三四七、四

(二) 夏 蠶

蠶種ハ本所ニ於テ製造セシニ化性以形種ニシテ六月二十二日午前十時講習生四十名ニ對シ一名ニ付七蛾分ツ、ヲ配當シ以テ飼育ニ從事セシメ第三齡飼食ニ至リ各自ノ蠶數ヲ調査シテ一名千五百頭ツ、トシ蠶量一分八厘掃立テタルモノト見做シテ飼育セシメタリ

飼育中ノ氣候ハ掃立ヨリ三齡ヲ了ル迄テハ曇天多ク降雨亦渺カラザリシガ以後快晴ニ復シ蠶兒發育佳良ニシテ無事上簇ヲ結了セリ今飼育中ニ於ケル氣象蠶兒經過其他

ヲ表示セバ左ノ如シ 蠶兒各齡經過表

種別	飼食月日(養蠶)		睡眠月日(催蠶)		停食月日(終蠶)		食桑中絶食中合計	室内平均温度	室内平均湿度	回数	給桑量	對總量一 次收購額
	第一齡	第二齡	第三齡	第四齡	第五齡	合計						
第一齡	六月廿二日 午前十時	六月廿五日 午前十時	六月廿六日 午前四時	三日 十八時	一日 三時	四日 二十一日	七三・五	八六・六	三四	二二四	二二五	
第二齡	六月廿七日 午前七時	六月廿九日 午後十一時	六月三十日 午後〇時半	三日 五時半	一日 十時半	四日 十六時	七二・五	八六・七	二七	七九四八	六二七	
第三齡	七月一日 午後十一時	七月四日 午前十時	七月四日 午後四時	二日 十七時	一日 四時	三日 廿一時	七八・三	八七・三	二五	一〇、五二〇	一、四六三	
第四齡	七月五日 午後八時	七月八日 午後二時	七月九日 午後二時	三日 十八時	一日 三時	四日 廿一時	七八・七	八二・二	三四	四四、〇〇〇	六、一一一	
第五齡	七月十日 午後五時	七月十五日 午前六時	七月十五日 午前十時	四日 十七時	一日 十七時	五日 十七時	八一・七	八〇・四	四一	二〇、一四〇〇	二七、九七二	
合計				十八日 三時半	四日 二十時半	二十三日	七六・九	八四・六	一六一	二六六、一〇	三六、三九八	

收購表

種別	上		中		下		全功		合計	
	容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量	容量	重量
以形	一八二〇 石合	一七二〇〇 石合	一四六 石合	一〇八三 石合	三〇 石合	三二〇 石合	三六八 石合	三六九三 石合	二二、五五 石合	二二、二九六 石合
對總量一 次收購額										三、〇九七

第一章 試 驗

本年度ニ於テ施セル試験項目ハ左ノ如シ

一 桑樹發芽及收穫調査 (繼續)

桑樹發芽ノ狀況ニヨリテ其早中晩ヲ確メ併テ桑樹ノ種類ニヨリテ收穫ノ多寡ヲ調査セントスルニアリ

一 桑樹仕立方試験 (繼續)

從來本邦ニ行ハル、根刈中刈高刈及喬木仕立法ハ成長ノ遲速ニ收穫ノ多寡ニ其命數等ニ如何ナル差異アルヤヲ調査シ栽桑法改良ノ資ニ供セントスルニアリ

一 桑樹間作物得失比較試験 (繼續)

桑樹間ニ種々ノ間作物ヲ施シタルモノト否ラザルモノトノ得失ヲ比較研究セントスルニアリ

一 桑樹摘採回数試験 (繼續)

桑葉ヲ春季ノミ摘採スルト春夏秋ノ三季共ニ摘採スルトハ桑樹ノ命數ニ幾何ノ差異ヲ生ジ栽桑經濟上如何ナル關係アルヤヲ試ミントスルニアリ

一 桑樹肥料三要素比較試験 (繼續)

肥料ノ主成分ナル三要素ハ桑樹ノ發芽及生長ニ如何ナル關係ヲ有スルヤヲ探究セントスルニアリ

一 桑樹肥料種類及適量試験 (繼續)

桑樹ニ用ニル普通各種肥料ノ優劣ヲ檢シ併セテ施肥ノ適量ヲ探究セントスルニアリ

一 桑園密植試験 (繼續)

一定ノ場所ニ桑樹ヲ密植シテ其利害得失ヲ探究セントスルニアリ

一 桑樹病虫害試験 (繼續)

桑樹ニ寄生スル種々ノ病菌及桑樹ヲ害スル各種虫類ノ性質及發育ノ狀況ヲ調査シ治療豫防及驅除ノ方法ヲ探究セントスルニアリ

一 春蠶種類試験 (繼續)

内外各種ノ蠶兒ヲ飼育シ生育ノ如何及絲質ノ良否ヲ調査シ以テ種類選擇ノ資ニ供セントスルニアリ

一 種類強弱試験 (繼續)

各種ノ蠶兒ニ就キ其飼育中種々ノ障害ヲ加ヘテ抵抗力ノ強弱ヲ試ミ以テ種類選擇ノ資ニ供セントスルニアリ

一 夏秋蠶種類試験 (繼續)

各種ノ夏秋蠶ヲ飼育シ發育及絲質ノ良否ヲ探究セントスルニアリ

一 産卵時期早晚試験

産卵時期ノ早晚ニヨリ發生ノ遲速收繭ノ品質ニ如何ナル關係アルヤヲ探究セントスルニアリ

一 蠶体生理試験 (繼續)

蠶体生理上ニ關スル種々ノ事項ヲ調査研究セントスルニアリ

一 産卵中温度試験 (繼續)

産卵中ノ温度ハ其ノ卵ノ發育孵化ニ如何ナル關係アルヤヲ檢セントスルニアリ

一 蠶種保護試験 (繼續)

種々ノ方法ヲ以テ蠶種ヲ保護越年セシメ以テ其利害ヲ比較セントスルニアリ

一 飼育法試験 (繼續)

種々ノ方法ヲ以テ春夏秋蠶ヲ飼育シ其育法ノ良否ヲ探究セントスルニアリ

一 清國種蠶兒飼育法試験

種々ノ方法ヲ以テ清國種ノ蠶兒ヲ飼育シ以テ其適法ヲ探究セントスルニアリ

一 食桑試験 (繼續)

内外各種ノ蠶兒ニ就キ食桑ノ多寡發育ノ遲速及食桑ニ對スル絲量ノ多寡等ヲ調査シ

其得失ヲ探究セントスルニアリ

一 桑葉ト絲質トノ關係試験 (繼續)

根刈及喬木仕立并ニ野生ノ桑葉ヲ蠶兒ニ給與シ其繭質糸質等ヲ調査シ且ツ染織上ニ及ボス結果ヲモ比較セントスルニアリ

一 遺傳試験 (繼續)

蠶兒蠶蛹蠶蛾等ニ於ケル異狀ノ狀態ニ就キ遺傳ノ有無及其傾向ヲ探知セントスルニアリ

一 上簇試験 (繼續)

上簇中ニ於ケル氣候ノ冷温乾濕ガ繭質ニ及ボス關係ヲ確メ且ツ種々ナル上簇器ヲ使用シ其得失ヲ探究セントスルニアリ

一 微粒子病試験 (繼續)

微粒子ノ繁殖遺傳及傳染ノ豫防ヲ探究セントスルニアリ

一 膿蠶試験 (繼續)

膿蠶ノ原因及豫防法ヲ探究セントスルニアリ

一 軟化病試験 (繼續)

軟化病ノ原因ヲ確定シ其豫防法ヲ探究セントスルニアリ

一 蛆害試験 (繼續)

蠶蛆ノ特性及發育ノ狀況ヲ觀察シ以テ之ガ豫防驅除ノ良法ヲ發見セントスルニアリ

一 蠶病消毒法試験 (繼續)

微粒子其他ノ蠶病ニ關スル消毒ノ便法ヲ案出セントスルニアリ

一 野蠶飼育試験 (繼續)

柞蠶其他種々ノ野蠶ヲ飼育シテ其發育ノ狀況成繭ノ良否等ヲ檢セントスルニアリ

一 殺蛹及乾燥器裝置試験 (繼續)

各種ノ裝置ヲ以テ殺蛹及乾燥ヲ試ミ其得失ノ如何ヲ檢セントスルニアリ

一 殺蛹乾繭及貯繭法試験 (繼續)

殺蛹乾繭ノ緩急及貯繭ノ方法ニヨリ解舒及色澤ニ如何ナル關係ヲ及ボスヤヲ試ミン

トスルニアリ

一 繰糸法試験 (繼續)

種々ノ繰糸法ヲ試験シ最モ適當ナル方法ヲ探究セントスルニアリ

一 製糸用水質試験 (繼續)

各種ノ法ヲ以テ水ヲ濾過シ製糸用水質改良ノ資ニ供セントスルニアリ

一 製糸機械及機具試験 (繼續)

種々ノ製糸機械及機具ヲ使用シ以テ其得失ヲ探究セントスルニアリ

一 霜害豫防試験 (繼續)

種々ノ方法ヲ試ミ以テ霜害豫防ノ便法ヲ按出セントスルニアリ

第三章 調 査

第一節 桑樹發芽及開葉狀況

三十八年度ニ於ケル桑樹發芽其他ノ狀況ハ初春以來概シテ冷温ナリシ爲メ平年ニ比シ多少遅後ナリシガ四月二十九日前後數回ノ霜害ハ甚シク發芽ニ障害ヲ與ヘ或ハ一旦開葉セシ早生種ノ如キモノ嫩葉ノ枯落スルテフ慘狀ヲ見ルニ至レリ今本年度ニ於ケル狀況ヲ表示セバ左ノ如シ

節 曲 (早生種)

月 日	大		中		小	
	芽苞長	葉條長	芽苞長	葉條長	芽苞長	葉條長
四月一日	四分	一分	二分	一分	四分	一分
四月二日	四分	一分	二分	一分	四分	一分
四月三日	四分	一分	二分	一分	四分	一分

五月十七日	五月十八日	五月十九日	五月二十日	五月廿一日	五月廿二日	五月廿三日	五月廿四日	五月廿五日	五月廿六日	五月廿七日	五月廿八日	五月廿九日	五月三十日	六月一日
八四二〇.三七〇	八四三〇.三八〇	九四三〇.三六〇	九四二〇.三六〇	九四三〇.三六〇	九四三〇.三六〇	九四三〇.三六〇	九四三〇.三六〇	九四三〇.三六〇	九四三〇.三六〇	九四三〇.三六〇	九四三〇.三六〇	九四三〇.三六〇	九四三〇.三六〇	九四三〇.三六〇
七三四五.二三〇	七三七〇.二五〇	七四〇〇.三三〇	七四〇〇.三三〇	七四〇〇.三三〇	七四〇〇.三三〇	七四〇〇.三三〇	七四〇〇.三三〇	七四〇〇.三三〇	七四〇〇.三三〇	七四〇〇.三三〇	七四〇〇.三三〇	七四〇〇.三三〇	七四〇〇.三三〇	七四〇〇.三三〇
八四二〇.四〇〇	八四三〇.四〇〇	九四三〇.四〇〇	九四三〇.四〇〇	九四三〇.四〇〇	九四三〇.四〇〇	九四三〇.四〇〇	九四三〇.四〇〇	九四三〇.四〇〇	九四三〇.四〇〇	九四三〇.四〇〇	九四三〇.四〇〇	九四三〇.四〇〇	九四三〇.四〇〇	九四三〇.四〇〇

五月一日	五月二日	五月三日	五月四日	五月五日	五月六日	五月七日	五月八日	五月九日	五月十日	五月十一日	五月十二日	五月十三日	五月十四日	五月十五日	五月十六日
二一六〇.一三〇	二一六五.一三〇	二一七〇.一四〇	二一八〇.一四〇	三一九〇.一四五	三二〇〇.一五五	六二五〇.二〇〇	七二七〇.二四〇	六二九〇.二五五	七二九〇.二八〇	七三二〇.三〇〇	七三二〇.三〇〇	七三三〇.三〇〇	七三三〇.三〇〇	八三九〇.三六〇	八四〇〇.三七〇
二一三〇.一三〇	二一五〇.一四〇	二一六〇.一六〇	二一五〇.一八〇	二一六〇.二一〇	二一八〇.二二〇	五一九五.一八〇	六二二〇.一九〇	六二四〇.二一〇	六二六〇.二三〇	六二六〇.二五〇	六二六〇.二五〇	六二六〇.二五〇	六二六〇.二五〇	六三〇〇.二八〇	七三二〇.三一〇
一〇〇〇.七〇	一〇〇〇.七〇	一〇〇〇.七〇	一〇〇〇.七〇	一〇〇〇.七〇	一〇〇〇.七〇	一〇〇〇.七〇	一〇〇〇.七〇	一〇〇〇.七〇	一〇〇〇.七〇	一〇〇〇.七〇	一〇〇〇.七〇	一〇〇〇.七〇	一〇〇〇.七〇	一〇〇〇.七〇	一〇〇〇.七〇

